

第8期（令和4年4月～令和5年3月）



まつもと子ども未来委員会 活動報告集



松本市

目 次

I	はじめに	1
II	第8期まつもと子ども未来委員会実施要項	2
III	第8期まつもと子ども未来委員会委員	3
IV	委員会開催状況	4
V	委員会活動	
	第1回委員会	5
	第2回委員会	6
	第3回委員会	8
	第4回委員会	10
	第5回委員会	12
	第6回委員会	14
	市内見学	17
	第7回委員会	20
	第8回委員会	23
	第9回委員会	26
	第10回委員会	28
	第11回委員会	29
	第12回委員会	30
	市への提言	31
	第13回委員会	37
	第14回委員会	39
	第15回委員会	41
	第16回委員会	43
VI	その他の活動	
	1 子どもの権利についてのテレビ収録	45
	2 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い	45
VII	資料	
	1 市への提言	46
	2 未来委員初回アンケート	65
	3 未来委員最終回アンケート	67
	4 保護者最終回アンケート	72

I はじめに

○ 松本市子どもの権利に関する条例 前文（一部抜粋）

わたしたちは、「すべての子どもにやさしいまち」をめざします。

- 1 どの子どもいのちと健康が守られ、本来もっている生きる力を高めながら、社会の一員として成長できるまち
- 2 どの子ども愛され、大切に育まれ、認められ、家庭や学校、地域などで安心して生きることが出来るまち
- 3 どの子ども松本の豊かな美しい自然と文化のなかで、のびのびと育つまち
- 4 どの子ども地域のつながりのなかで、遊び、学び、活動することができるまち
- 5 どの子ども自由に学び、そのための情報が得られ、支援が受けられ、自分の考えや意見を表現でき、尊重されるまち
- 6 どの子どもいろいろなことに挑戦し、たとえ失敗しても再挑戦できるまち

松本市子どもの権利に関する条例が施行されてから10年が経過しました。本年4月には、こども基本法が施行、また、こども家庭庁が発足し、多くの自治体で「子どもの権利」に視点を向けて、子ども施策が展開されはじめています。そのような中、本市では、条例に基づき、子ども自身の育ちに関わる「子ども支援」にも力を入れて取り組んでいます。

その取り組みの一つが、まつもと子ども未来委員会です。未来委員会は、学校、地域、年代を越えて、市政や地域の課題について学び、解決に向けて意見交換をするなど、活動を通して自分たちが住むまちへの意識を高め、松本のまちづくりを子どもたち自らが考えます。このような取り組みは、子どもたちが自らの意見を表明し、それを受け止めてもらえること、相手の意見に耳を傾け、受け止められるようになることで、自己肯定感を育むことや、子ども自身の育ちにもつながると考えています。

さて、第8期まつもと子ども未来委員会は、委員が関心を持った①福祉、②公園のPR、③森林の環境、④河川の環境の4つのテーマについて、松本のまちづくりに関する市への提言を行いました。また、アルプス公園魅力向上検討会議市民ワークショップや未来へつながる私たちのまちづくりの集いなどの集会にも積極的に参加し、意見表明を行いました。

また、今期も市内の大学・短期大学に通う学生にサポーターとして参加いただいたことで、子どもの意見表明が活発となり、未来委員会の活動がより充実しました。サポーターの皆さん、ありがとうございました。

「子どもの権利」に取り組むは、なかなか他の自治体に広がらない現状があります。未来委員会のように、子どもたちが本来持っている力を発揮して成長していく場が広がっていくこと、そのような場で活躍する子どもたちの力に大人が気付くことを通して、「子どもの権利」に関する取り組みが、県内外に更に広がっていくことを期待しています。

Ⅱ 第8期まつもと子ども未来委員会実施要項

1 趣旨

子どもの意見表明や参加の促進を図り、子どもにやさしいまちづくりを一層進めるため、まつもと子ども未来委員会を開催するもの

2 内容

子どもたちが、学校、地域、年代を越えて、市政や地域の課題について学び、解決に向けて意見交換をするなど、活動をとおして自分たちが住むまちへの意識を高め、松本のまちづくりを子どもたち自らが考える。

3 対象

松本市内在住、在学または市内で活動をしている小学5年生から高校3年生までの子ども（就労者、予備校生等を含む）

4 活動期間

令和4年4月～令和5年3月

5 主な事業

- (1) 子ども未来委員会
- (2) 施設見学
- (3) 市への提言
- (4) 委員の興味・関心のある事業の参加、実施

6 参加者募集方法

- (1) 市内小中高校へ募集チラシを配付
- (2) 市公式ホームページ、SNS、広報まつもと3月号に掲載

7 参加者募集期限

4月13日（水）まで

8 その他

- (1) 市内の大学、短期大学の学生を対象にサポーターを募集
- (2) 委員が自発的に活動できるよう、高校生の委員及びサポーターによる運営会を必要に応じて開催し、委員会の方向性等について協議

Ⅲ 第8期まつもと子ども未来委員会委員

1 総数 37人

2 内訳

学 年		学 校 (人数)
小学生 18名	5年生 11名	梓川小学校(1)、開明小学校(1)、鎌田小学校(2)、島立小学校(1)、 田川小学校(1)、波田小学校(1)、山辺小学校(1)、芳川小学校(3)
	6年生 7名	開智小学校(1)、鎌田小学校(2)、島内小学校(1)、清水小学校(1)、 信州大学附属松本小学校(1)、田川小学校(1)
中学生 14名	1年生 7名	開成中学校(1)、鎌田中学校(3)、信州大学附属松本中学校(1)、 松島中学校(1)、丸ノ内中学校(1)
	2年生 6名	安曇中学校(1)、鎌田中学校(1)、信州大学附属松本中学校(1)、 信明中学校(1)、高綱中学校(1)、松島中学校(1)
	3年生 1名	鎌田中学校(1)
高校生 5名	1年生 3名	松本県ヶ丘高等学校(1)、松本蟻ヶ崎高等学校(1)、 松本国際高等学校(1)
	2年生 1名	松本蟻ヶ崎高等学校(1)
	3年生 1名	東京都市大学塩尻高等学校(1)

3 名簿

(50音順、◎委員長 ○副委員長)

属 性	氏 名
小学生	浅井 想矢、浅輪 奏仁、荒井 結人、大沢 篤士、岡本 結花、小野 航平、 上條 乃愛、○刈谷 初花、杉野 広樹、竹内 幸兔、根本 丈瑠、平形 藤子、 藤池 夏希、藤崎 晋一郎、堀 大希、丸山 日和、○山田 明文、山脇 悠誠
中学生	石田 鈴華、伊藤 英怜奈、大沢 朱夏、大澤 悠、○沖本 悠真、河田 美紅、 鈴木 咲歩、高岡 瑞希、高山 暁歩、○滝川 未央、藤池 春妃、藤崎 悠理、 山田 夢佐志、横川 詩
高校生	阿部 康介、◎鈴木 柚葉、滝澤 智貴、根本 怜奈、橋本 昂賢

Ⅳ 委員会開催状況

回	日 時	場 所	内 容
1	4月23日(土) 13:30~15:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・オリエンテーション ・正副委員長の選出
2	5月15日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・第8期委員会スローガンの決定 ・活動テーマの検討
3	6月4日(土) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマ、グループの検討
4	6月18日(土) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマ、グループの決定
5	7月3日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマに関する学習、話し合い
6	7月10日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマに関する学習、話し合い
	7月31日(日) 9:00~12:00	松本駅、庄内公園、南部公園、薄川 ほか	・市内見学
7	8月28日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市内見学の振り返り ・活動テーマに関する学習、話し合い
8	9月4日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマに関する学習、話し合い
9	9月25日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言資料の作成
10	10月16日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言資料の作成
11	11月6日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言資料の決定
12	11月13日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 大会議室	・市への提言のリハーサル
	11月20日(日) 12:00~16:00	勤労者福祉センター 大会議室	・市への提言
13	12月11日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言の振り返り ・今後の活動について
14	1月15日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・次期委員会について
15	2月5日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・次期委員会について
16	3月12日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・まとめ

V 委員会活動



(第8期) 第1回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年4月25日

第8期第1回まつもと子ども未来委員会を、令和3年4月23日(土)に勤労者福祉センター3-3 会議室で行いました。この日は、36人の委員のうち、26人の委員が出席しました。

1 自己紹介

今年度は、36人が未来委員会に応募してくれました。

家で記入してきてもらった自己紹介シートを参考にしながら、一人ずつ前に出て自己紹介をしてもらいました。

昨年度からの継続の子も多く、和気あいあいと進めることができました。また、たくさん話をしてくれる人もいて、楽しく自己紹介をすることができました。

これから1年間楽しく活動していきましょう、よろしくお願いします！



2 まつもと子ども未来委員会について、子どもの権利について

事務局から未来委員会について、目的や内容、取り組むことの予定など説明がありました。11月の市への提言に向けて学習を進めていきます。



また、子どもの権利についても説明がありました。「権利」は難しい言葉ですが、資料とワニブタ絵本ガイドブックを利用して、わかりやすく説明しました。ガイドブックを使いながら今後理解を深めていきます。

委員長1人・副委員長4人をそれぞれ話し合って決めました。

◎ 委員長 鈴木 柚葉さん

○ 副委員長 沖本 悠真さん(リーダー)

滝川 未央さん

刈谷 初花さん

山田 明文さん



次回から、正副委員長に司会進行をお任せします。皆さんも協力して良い委員会にしていきたいと思います。



(第8期) 第2回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年5月16日

第8期第2回まつもと子ども未来委員会を、令和4年5月15日(日)に^{きんろうしゃふくし}勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、36人のうち 32 人の委員が参加しました。

1 スローガンについて

第8期の委員会の活動のスローガンを考えました。まずは個人で考えたスローガンをグループ内で発表し、次にグループの中でいくつか^{こうほ}候補を決めて、全体に向けて発表しました。スローガンは、分かりやすい言葉で考えてもらいました。昨年は「^{かがや}輝く松本の今、そして未来を^{つく}創ろう」でした。

各グループが考えたスローガンは

「今できることをつみあげて、^{しじょうさいこう}史上最高の松本をつくろう！！」

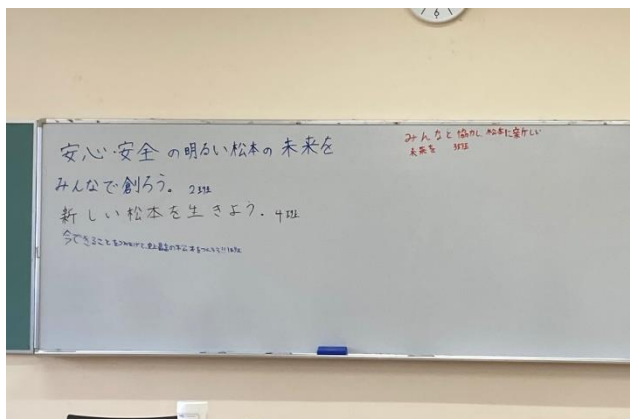
「安心・安全の明るい松本の未来をみんなで創ろう」

「みんなと協力し、松本に明るい未来を」

「新しい松本を生きよう」

この案の中で多数決をとった結果、一番得票数^{とくひょうすう}が多かった「新しい松本を生きよう」に決まりました。

松本もパートナーシップ制度など新しいことを取り入れているので、自分たちもそれに合わせて生きていこうという思いが込められています。



2 活動について

事前に記入^{じげん}してきてもらっていた「松本市のことについて」を^{さんこう}参考に、今期の委員会で市への提言に向けて学習していく^{かだい}課題について意見を出してもらいました。

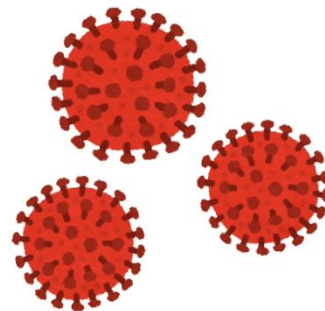
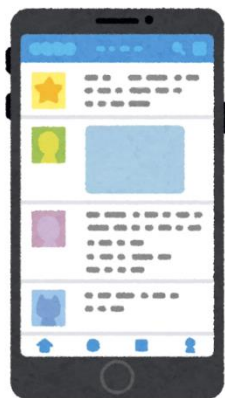
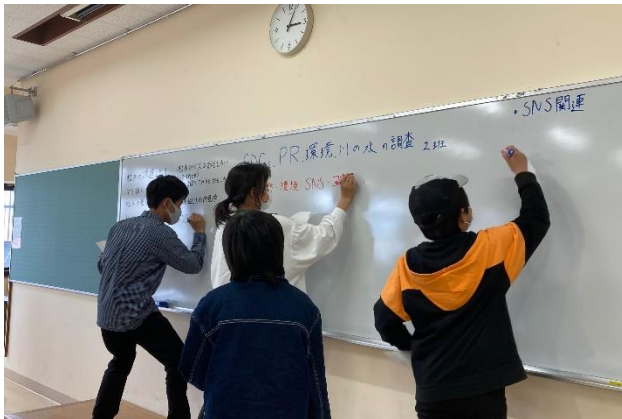
1班:松本の^{かだい}課題を知る、ごみ拾い、松本の^{れきし}歴史を調べる、川などのごみをとる(^{ざいらいしゅ}在来種の^{ほご}保護)、環境問題、ボランティア、松本のバスは面白い、松本巡り、SDGsについて関連すること
→ 松本について知る、環境、ボランティア、PR

2班:SDGs、PR、環境、川の水の調査 → PR、環境

3班:SNS、松本城パンフレット、環境問題、松本市を歩き回る、ポイ捨て、いじめ、SDGs、井戸
→ SNS、PR、環境、学校、社会

4班:自然、環境、SNS、コロナ → SDGs、環境、SNS、コロナ

各班から出された意見をまとめて、「学校(いじめ^{ふく}含む)、コロナ、環境、PR、福祉、SNS」の6つに絞り込みました。次回、最終的な絞り込みと担当するグループ分けを行いたいと思います。





(第8期) 第3回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年6月6日

第8期の第3回まつもと子ども未来委員会を、令和4年6月4日(土)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、36人の委員のうち 22 人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち 4 人のサポーターが出席しました。

1 大学生サポーターの紹介

今年度は、松本短期大学、松本大学、信州大学から5人の大学生サポーターが未来委員会をサポートしてくれます。サポーターの皆さんからそれぞれ自己紹介をしてもらいました。これからよろしくお願いします。



2 活動のテーマについて

前回の委員会で意見を出してもらった、委員会でやってみたいことをまとめました。「PR」「福祉」「環境(川、森林、都市)」のグループに分かれて話し合うことになりました。

グループごとに「調べる内容」、「課題となっていること」、「市に提言すること」、「テーマに関して見学したい場所」を話し合いました。

PR グループ

- 課題
 - ・ PR 方法や PR しているものが固定化・マンネリ化している
 - ・ 何を PR しているのか知らない
- 調べる内容
 - ・ 今まであまり PR されてこなかった場所 ・ ロケ地(映画・ドラマ)
 - ・ 温泉、公園、神社(小さいものや穴場)
- 提言 ・ 新しい PR 方法 ・ 今まで PR されてこなかったもの
- 見学場所 ・ ロケ地 ・ 温泉 ・ 公園



福祉グループ

- 課題 ・ 福祉があまり知られていない
- 調べる内容 ・ 福祉とは何か ・ 児童福祉 ・ 介護福祉
- 提言 未定
- 見学場所 ・ 児童センター ・ 介護センター



環境(川)グループ

- 課題 ・ 川の水が汚い? ・ 川にゴミが多い ・ 外来生物の影響
- 調べる内容
 - ・ 川の水が与える生物への影響 ・ ゴみの量、水質調査
 - ・ 川ごとにどういった生き物がいるのか
- 提言 未定
- 見学場所 ・ 川 ・ 上高地 ・ 下水処理場



環境(森林)グループ

- 課題 ・ 松枯れ ・ 森林伐採 ・ 山の切り崩し
- 調べる内容
 - ・ CO2 を減らすには ・ 松枯れの松の活用 ・ ゴミ、森の外来種、伐採
- 提言 未定
- 見学場所 ・ 市役所 ・ 山(ガイド) ・ 科学館、博物館

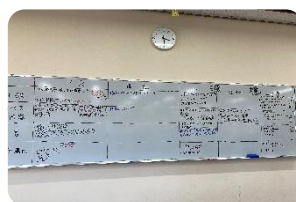


環境(都市)グループ

- 課題
 - ・ ゴみを減らす ・ 観光客が来たがらない
 - ・ お城が心配 ・ ラクガキが多い
- 調べる内容
 - ・ 昔からどのくらいごみが増えたのか ・ どんな場所にゴミが多いのか
 - ・ どうしてラクガキが増えるのか
 - ・ お城の近くのごみはお城にどんな影響があるのか
- 提言
 - ・ ポイントを集める → ためると何かもらえる。
(リサイクルやゴミ拾いをするとポイントがもらえる。ポイ捨てをすると減る。)
- 見学場所 ・ クリーンセンター、リサイクルセンター ・ 浄水場



以上のような意見が出ました。次回は、より具体的な内容を考えていくことになります。思いついた意見や別のグループへの提案などがあれば、どんどん発言していきましょう。広い視野をもって取り組んでいきましょう。





(第8期) 第4回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年6月20日

第8期の第4回まつもと子ども未来委員会を、令和4年6月18日(土)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、36人の委員のうち23人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち2人のサポーターが出席しました。

1 活動のグループ編成について

前回欠席の人もいたので、改めてグループを編成しました。環境の都市グループは廃止し、「PR」5人、「福祉」4人、「環境の川」10人、「環境の森林」6人に分されました。

2 活動ごとの話し合いについて

① 見学したい場所・施設を話し合ってもらいました。

見学したい場所・施設

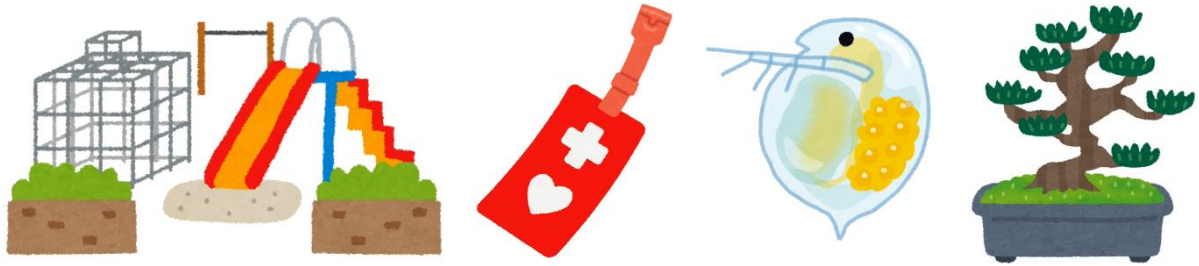
- PR : 公園(大きい公園) 南部公園、あがたの森公園、庄内公園、芳川公園、アルプス公園
→ あまりPRされていないから、公園の設備、特徴、いいところ、改善点を調べる
- 福祉 : ユニバーサルデザインがあるところ 駅 イオンモール 障がい者施設
- 川 : 河川(田川、奈良井川)
→ どんな生物がいるのか、どのような種類のごみがあるか、水質調査
図書館 → 川について調べる 上高地 → どのくらいきれいか。ほかの河川との比較
寝覚めの床 → 周りの河川との比較。どのようにしてキレイを保っているのか
水路など以前魚がいたところが、まだいるのかを調べたい
外来種の数、在来種の数、どのくらいのごみがあるのか
- 森林 : 環境保全研究所(長野市)



② 活動テーマに関して、知りたい市の取り組みやほかの団体について話し合いました。

市の取り組みなどについて聞きたいことなど

- PR：公園の設備について、公園を作るまでの経過や金額・場所、遊具の交換時期など
- 福祉：実際に不自由な人にどこが不便か聞いてみたい
- 川：川のごみ拾いはだれがしているのか、川についての条例が松本や他市町村にあるか
外来種について調べたい、プランクトンや水について研究しているところはあるか（ばっすい）
- 森林：枯れた松の活用と市の対応、なぜ松が枯れるのか、どんな場所の木が枯れるのか

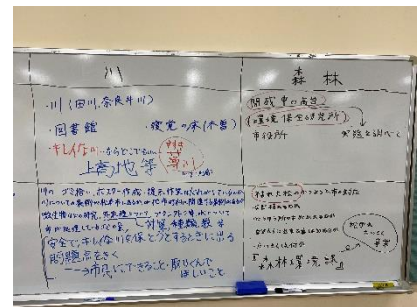
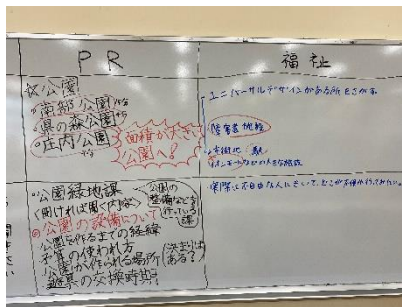


③ 各グループで話し合った内容を全体で話し合いました。活動テーマはまだ、考えている途中のところが多いため、市内見学について情報共有をしました。

見学場所候補

- 薄川（松商学園あたり）：きれいな川、川に降りて調べることができる
- 開成中学校の高台：松枯れの実態をみる
- 環境保全研究所：長野市だから遠いか
- 南部公園、あがたの森公園、庄内公園：PRのための下調べ
- 障がい者施設：行くところ探しが難しい
- 松本駅：JRの人に説明など頼めるか

以上のような意見が出ました。内容などまだ考えていくところはたくさんあると思いますが、いろいろな意見を出して、視野を広く学習を進めて行きましょう！





(第8期) 第5回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年7月6日

第8期の第5回まつもと子ども未来委員会を、令和4年7月3日(土)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、36人の委員のうち26人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち2人のサポーターが出席しました。

1 松くい虫被害の実態と対策について

松本市役所、環境エネルギー部、森林環境課の阪田課長補佐に松くい虫の被害の実態と対策について、お話をしてもらいました。

松枯れの多くは松くい虫による被害で発生しています。マツノマダラカミキリがマツノザイセンチュウを木から木へ運び、マツノザイセンチュウが幹の中で爆発的に繁殖し、松を弱らせてしまうことが原因です。昭和38年に長崎で初めて発生し、現在は北海道を除く全国で確認されています。

防除方法としては、①伐倒駆除(被害木を切って、薬剤処理をする)、②予防薬剤散布(薬剤を噴霧やヘリなどで散布)、③更新伐・樹種転換(松ではない木にしていく)、④樹幹注入(健全な松に薬剤を注入し、マツノザイセンチュウの侵入を防止する)の4種類がある。

観光資源として景勝地などを、一か所を集中的に保護することは可能だが、山全体の松を守っていくのはお金も人も時間もかかり、現実的には難しい。

松本市としては、市民の皆さんにも森林を身近に感じたり、興味を持ったりしてもらえるようにイベントやフォーラムを開催していく計画がされています。



2 市内見学について

市内見学の案を確認してもらい、追加や変更の必要がないかを確認しました。

7月31日 8:45集合 12:00 解散

松本駅(ユニバーサルデザイン) → 庄内公園(公園設備) →

南部公園(公園設備) → 開成中学校付近(松枯れ被害) → 薄川(川の環境)

以上の場所を見学することが決定しました。



3 活動テーマに関する話し合い

各グループでテーマ、調べる内容、課題の内容、提言の内容について話し合ってもらいました。

PR グループ

- テーマ 公園の PR(子ども向け)
- 調べる内容 未定
- 課題の内容 ・ 1つの公園の^{みりょく}魅力が少ない
 - ・ 椅子^{いす}がガサガサ ・ 遊具の種類が少ない公園(緑地)が多い
- 提言 未定



福祉グループ

- テーマ ユニバーサルデザインについて、まず自分たちが知って広めていく
- 調べる内容 ・ 自分たちのお気に入りのデザインを調べる。
 - ・ 共有して課題点を見つける
- 課題の内容 未定
- 提言 未定



環境(森林)グループ

- テーマ 松枯れ
- 調べる内容 ・ 被害状況 ・ 線虫の増え方について ・ 原因
 - ・ なぜ松本の被害が多いのか ・ 被害対策
- 課題の内容 ・ 市のお金が足りない
 - ・ 市民が松枯れについてあまり知らない
- 提言 未定



環境(川)グループ

- テーマ 河川の生態系(仮)
- 調べる内容 ・ 川にかかわる生物 ・ 川の条例や決まり
 - ・ 川を^{きれい}綺麗にするための地域の取り組み ・ 魚がどのくらい住んでいるか
 - ・ 同じ川の中でも、環境、場所によって住んでいる魚が変わるか
 - ・ ごみの^{はいき}廃棄 ・ 水質
- 課題の内容 ・ 川の現状について知っている人がすくない
 - ・ 川の汚い、綺麗の差が激しい
- 提言 未定





(第8期) 第6回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年7月12日

第8期の第6回まつもと子ども未来委員会を、令和4年7月10日(土)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち30人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち2人のサポーターが出席しました。

1 松本市内の公園について

松本市役所、建設部、公園緑地課の濱さんに松本市内の公園について、お話をしてもらいました。

市の公園は、公園緑地課(都市公園・都市緑地・開発行為緑地)、耕地課、農政課(農村公園)、こども育成課(児童遊園)、観光プロモーション課(温泉広場)、環境保全課(墓地公園)が管理しています。

公園緑地課で管理している公園でも種類があり、街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、広域公園、特殊公園、都市緑地、開発行為緑地などがあります。公園と都市緑地は合わせて162か所、開発行為緑地は237か所もあります。

身近な公園としては、街区公園、近隣公園(庄内公園等)、地区公園(あがたの森公園、芳川公園等)があり面積などで分かれています。

都市の代表的な公園としては、総合公園(松本城公園、アルプス公園)があり、市民の休息、鑑賞、散歩などの総合的な利用目的のために整備されています。

緑地としての都市緑地は自然環境の保護や景観の向上を図るために整備されていて、奈良井川緑地、薄川緑地などがあります。

開発行為緑地は、開発区域の住民が利用できる空間として、公園を整備することが義務づけられています。遊具があったり、防火水槽や消火栓が設置されていたり、様々な使い方をされています。

公園の維持管理は、業者さんに作業してもらう場合、町会に管理してもらう場合、公園緑地課で直接作業をする場合などがあります。

公園の施設については、随時更新をしており、遊具やトイレ、外灯などを新しくしています。危険な遊具は安全なものに、トイレは和式のものを洋式に、外灯はLED化しています。



2 活動テーマに関する話し合い

各グループでテーマ、調べる内容、課題の内容、提言の内容について話し合ってもらいました。

PR グループ

- テーマ 公園の PR、新たな PR 方法
- 興味を持った理由
 - ・ 公園は身近なのに PR されていなかったから
 - ・ 「PR」に興味があったから
- 市の現状
 - ・ いい公園があるのに知られていない ・ 駐車場が少ない
 - ・ ルールの周知不足(知らない、守れない) ・ 利用者が少ない
- 課題
 - ・ 公園の知名度^{ちめいど} ・ ルールの周知 ・ 遊具の改修^{かいしゅう}、看板の設置^{せっち}
 - ・ PR 方法のマンネリ化 ・ PR 方法が弱い(イベント、効果がわからない)



福祉グループ

- テーマ ユニバーサルデザイン
- 興味を持った理由
 - ・ 障がいを持っている人が生活しやすい社会にしたい
 - ・ 日々の生活の中で使いにくいことがないのか知りたい
- 市の現状
 - ・ 道路などには多く見られるが、建物や施設の中にはあまりない
 - ・ 使いづらそうにしている人をよく見かける
- 課題
 - ・ 若者や学生がユニバーサルデザインをよく知らない
 - ・ 音が鳴らない信号機が多い
 - ・ 福祉施設^{しせつ}、公共施設にも少ない
- 提言
 - ・ 学校で授業などを行い、デザインを学ぶ→どこに使われているか
 - ・ 必要なところにユニバーサルデザインを早めに設置



環境(森林)グループ

- テーマ 松枯れ
- 興味を持った理由
 - ・ 松枯れの被害が大きいから
 - ・ 松本は山が多い ・ 森が好き
- 市の現状
 - ・ 松本市の松枯れの多さ 県内 1 位
- 課題
 - ・ 松枯れの対策がなかなか進んでいない
- 提言
 - ・ 松枯れ対策をして！



環境(川)グループ

- テーマ 川に捨てられるごみについて
- 興味を持った理由
 - ・ よく川のごみを見ていたから→現状を知りたい
→被害を最小限に抑えたい
- 市の現状
 - ・ ごみを多くの人が自主的に拾う状況になっていない
 - ・ 看板があっても捨てる人がいる→指示を守らない人がいる
- 課題
 - ・ 汚い川がある
 - ・ ごみ拾い(ボランティア)を開催しても人が来ない
- 提言
 - ・ ポイ捨ての現状→解決方法の提案
→市民での定期的なごみ拾いを行うなど





(第8期)まつもと子ども未来委員会市内見学の報告

令和4年8月2日

第8期のまつもと子ども未来委員会市内見学を、令和4年7月 31 日(日)に実施しました。この日は、37人の委員のうち27人の委員が出席しました。

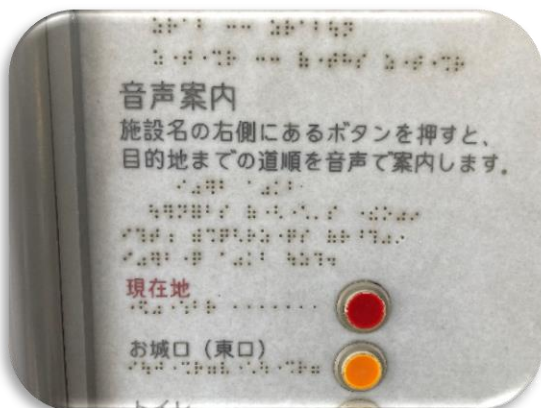
1 松本駅（福祉グループ）

はじめに松本駅を訪れ、松本駅周辺のユニバーサルデザインを探しました。

視覚に障^{しかく}がいがある人向けには音声ガイドが設置^{せつち}されており、「後ろ方向の点字ブロックにそって〇メートル進むと改札^{かいさつ}があります」など、音声で具^ぐ体的^{たいてき}に場所を教えてください。また、トイレでは案内音声が自動で流れていました。

点字ブロックは色々なところで見かけました。階段の手すりや案内板、きっぷの料金表などには点字が付いていました。ピクトグラムを使った案内板や注意喚起^{ちゅういかんき}の動画も見つけることができました。

エレベーターは、入った扉^{とびら}の向かい側が開閉する仕様になっていて、ベビーカーや車いすが方向転換^{ほうこうてんかん}をしなくても使用できるようになっていました。



2 庄内公園・南部公園（PRグループ）

次に庄内公園と南部公園を訪れました。公園内にどんな注意喚起の看板や遊具があるか調べたり、どんな植物があるか観察したりしました。セミの抜け殻がたくさんあったり、植物の実や種が落ちていたりするのを見つけました。南部公園ではもうトンボが飛んでいるのを発見しました。



3 ちかとういけ 千鹿頭池周辺（森林グループ）

次に、千鹿頭池周辺を訪れ、松枯れの実態を見学しました。

枯れている松を間近で観察することができました。大半は枯れてしまっていたましたが、枯れていない松には薬剤注入をしたことを示す札が付いていました。薬剤注入の跡なのかわかりませんが、松の幹に小さな穴を見つけた人もいました。植樹されたのか、自然に生えたのか分かりませんが、松の若木もありました。ほかの木が植樹されているのも見られました。



4 ^{すすきかわ}薄川（河川グループ）

市内見学の最後に、^{まつしょうがくえん}松商学園南側の薄川の観察を行いました。

濡れないようにしながら、河川に入ってみたり、石をひっくり返したりして、何か生き物がいないか探してみました。メダカのような小さな魚やヒル、アメンボなどがいました。

また、ごみを拾ってくれた委員もいて、花火のごみやペットボトルなどを回収しました。





(第8期) 第7回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年9月5日

第8期の第7回まつもと子ども未来委員会を、令和4年8月28日(日)に^{きんろううしやふくし}勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち26人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち2人のサポーターが出席しました。

1 障がい者と共に生きるための福祉制度について

松本^{しかくしやうがいしや}視覚障害者福祉協会の前野さん、松本市^{ちやうかく}聴覚障害者協会の吉池さん、松本市健康福祉部障がい福祉課の江原さんにお越しいただき、障がいのことについて、お話をしてもらいました。

(1) 障がいに関するマークや障がいについて？

障がい福祉課の江原さんから、障がいのある人に関するマークと、障がいにはどういうものがあるのかなどを教えてもらいました。

車いすのマークが^{こくさい}国際シンボルマーク、人間のシルエットの右下に+マークがついているものはオストメイトのマークで多目的トイレなどで見かけることができます。世界共通のマークもあれば、日本独自のマークもあり、聴覚障がい者が車につける^{ちやう}ちょうのマークなどもあります。ほかにも障がい者団体などがマークを^{せいいてい}制定しています。

また、障がいの程度は人によって大きく違うということで、例えば目が見えない人でも、まったく見えない人、明るい暗いかわからぬ人、^{ちやうしんぶぶん}中心部分が見えにくい人、右半分しか見えない人など、人によって^{ちが}違い、助けてほしいことも違うのでぜひ声をかけてほしいです。

また、だれでも病気や事故で障がいを持ってしまうかもしれない、同じ障がいでも一人ずつ違うということを理解して、助けを求めている人に^て手を^さ差し^の伸べてほしいというお話でした。



オストメイト用設備／オストメイト 障害者のための国際シンボルマーク



(2) 視覚障がいや盲導犬^{もうどうけん}について、見えないことで困ること

松本視覚障害者福祉協会の前野さんに視覚障がい、盲導犬などについてお話をしてもらいました。

前野さんは生まれつき目が見えなかったわけではなく、大人になってから視力を失ってしまい、今は光も感じない全盲^{ぜんもう}という状態^{じょうたい}です。未来委員会には盲導犬^{かいどうけん}と介助者^{かいじょしゃ}の方と一緒に来ていただきました。

日常生活^{にちじょう}は、物がいつもと同じ場所^{ばしょ}にあれば、家や会社の中を移動したり、物を取ったりすることは普通にできます。食事^{しょくじ}も、最初に食べ物の位置^{ちゐ}を伝えてもらえれば、お箸で食事^{しょくじ}をすることができま^す。ただ、食べ物のサイズがわからないので、口に入らない大きさだったりすると顔にドレッシングやソースがついてしまいます。お風呂も普通に一人で入ることができ、シャンプーやリンスはいつも同じ場所に置いてあれば問題ありません。

困^こることは、周りに人が居るか居ないかわからないことです。話をしているときに、静かに退席^{たいせき}されても気が付かず^{だれ}に誰もいないのに話を続けてしまったりします。逆に静かに入室^{にゅうしつ}されて、すぐそばで声をかけられると、とてもびっくりします。また、物の場所がいつもと10センチずれてしまうと、探しても物があることに気が付けなかったり、普段ないものが床に置いてあると蹴^けってしまったりすることもあります。

次に盲導犬^{もうどうけん}についてです。盲導犬とは目が不自由な人が安全に歩けるように助けてくれる犬のことです。盲導犬は危険^{だんさ}（段差^{だんさ}や障害物^{しょうがいぶつ}など）があれば基本的^{きほんてき}には止まって知らせてくれます。止まったら足や手を使って周囲に危険がないか確認して進みますが、頭上まではなかなか気が回らず木の枝や看板などに引っかかったりすることがあります。普段利用している場所こそ勘違いが起きてしまうこともあるので、盲導犬を連れているからではなく、「何かお手伝いすることはありますか」と声をかけてくれると嬉しい^{うれ}です。また、盲導犬を連れていると入店拒否^{きょひ}などがまだあります。拒否されたときに、店内を利用している人が入店させてあげてほしいと、お店に声をかけたことで入店できたこともあります。入店拒否の場面などに遭遇^{そうぐう}したらぜひ声をかけてほしいです。

最後に、目が見えないから周りの風景^{ふうけい}の話などをしてはいけないという風に思っている人も多いです。途中で目が見えなくなった人は、色や景色^{けしき}を見たことがあるので想像^{そうぞう}できますし、生まれつき目が見えない人も「空は青くて、雲は白いんだよ」などと小さい時から話を聞いているので自分の中でイメージがあります。ですので、たくさん風景などの話をしてほしいと思っています。



盲人のための国際シンボルマーク



ほじょ犬マーク



(3) 聴覚障がいや聞こえないことで困ること、日常など

松本市聴覚障害者協会の吉池さんに、聴覚障がい者の日常生活の中で困ることなどについて話していただきました。

聴覚障がいには、生まれつき聞こえない人、途中で聞こえなくなった人、聴力が弱い人、逆に音がよく聞こえてしまう人など、いろいろな人がいます。コミュニケーション方法も、手話や筆談^{ひつだん}、「音声文字化、文字を音声化」するアプリなど様々な方法があり、必要に応じて使い分けています。

日常生活に必要な音声情報^{じやうほう}は光や振動^{しんどう}などで知る方法があります。目覚まし時計は振動と光で時間を知らせてくれるもの、玄関チャイムは強い光で知らせるものを使っています。テレビは手話ニュースや字幕付きの番組があります。人を呼ぶときは、机をたたいて振動で伝えたりします。講演会などの場では照明をつけたり消したりして、視覚的にわかるように工夫します。

困ることは災害や交通機関などの放送がわからないこと、マスクで口元が隠^{かく}れているから口の形が見えないこと、受付などでは、声で呼ばれても分からないことなどです。差別されることもあります。例えば、聞こえる人を一緒に連れてきてくださいと言われてたり、手話通訳や筆談を断られたりすることもあります。最近では愛知県で新型コロナウイルスに感染した際に、電話での健康チェックができないとの理由で、ホテルでの療養^{りやうよう}を断^{ことわ}られたというケースがありました。

また、東日本大震災では、犠牲^{ぎせい}になった障がい者のうち聴覚に障がい者が^{わりあい}ある人の割合が高く、要因としては音声だけの緊急放送など聴者向けの配慮が多く、聴覚障がい者のための配慮が無かったためといわれています。

外見だけでは聴覚障がい^{きこえない}が分かりにくいこともあります。一番困るのは手話で話す聴者が少ないことです。最後に「拍手」と「ありがとう」の手話を教えていただきました。これからは立場が違^{ちが}うことに興味を持って障がいに関係なくみんなが暮らしやすい社会に変えていきましょう。





(第8期) 第 8 回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年9月7日

第8期の第8回まつもと子ども未来委員会を、令和4年9月4日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち28人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち1人のサポーターが出席しました。

1 松本市の生物多様性について

松本市役所環境エネルギー一部環境・地域エネルギー課の金井さんに、松本市の生物多様性についてお話をしてもらいました。

生物多様性とは、生き物たちの間の違いと、そのつながりのことをいいます。多様性の中にも種類があり、「生態系の多様性」=高山、草原、都市河川などの生態系がどれだけたくさんあるか。「種の多様性」=哺乳類、昆虫類、植物など生き物の種数がどれだけ多いか。「遺伝子の多様性」=同じ種の生き物が異なった遺伝子をどれくらい多く持っているかというものです。

私たちが生活するうえで欠かせない衣食住、綺麗な空気や水、伝統・文化などを支えるものはすべて生物多様性の恵みで、すべての元となっているものです。そして、これからも恵みを受け取ることができるよう、生物多様性を保全し、持続可能な方法で利用していかなければなりません。私たちが受け取っている恵みは人間が生きていくための基盤「基盤サービス」、生活に役立つ「供給サービス」、伝統・文化を支える「文化的サービス」、安心・快適な暮らし「調整サービス」などがあります。

生物多様性は危機にさらされていて、里山の整備が不足していて鳥獣被害が増えたり、地球温暖化が進んで南極や北極の氷が溶けてしまったりしています。松本市では外来種のアレチウリが河川敷で増えたり、ニホンジカが増えて木の皮をはいでしまうなどの問題が見られます。

松本市は「生き物あふれる松本プラン」～生物多様性のホットスポットを未来へつなぐまち松本～を作成して松本市の生物多様性を守る取り組みを進めています。市内は、高山、草原、里山など様々な環境が整っていることから、環境ごとに重点施策が定まっています。また、生物多様性保全事業として、モニタリング調査をしています。奈川地区のゴマシジミやアルプス公園のチョウ類など5種類の調査を1年に1つずつ行っています。5年に1回調査を続けていくことで、データを集めて分析することができます。

ほかにも生物多様性エコスクールを実施し、ホタル観察会や川の生き物観察会など子ども達に自然に触れあって、学べるイベントなどを開催しています。また、市内の生き物の分布を把握するために市民の方に報告をしてもらって市民生きもの調査も行っています。今年度はセミを調査しています。ホタルやカエル、トンボなどを調査する年もあります。

2 実地学習(河川グループ・希望者)

河川グループと希望者は^{すすぎかわ}薄川に散策にいきました。外来種のアレチウリやキクイモを実際に観察することができました。雨が降ってきてしまい15分ほどしか散策することができず残念でした。



3 市内見学の振り返り

PR グループ

庄内公園

- ・禁止ではなく、やっていいことを書いたほうがいい
- ・看板と設備が矛盾している
- ・障がい者用の駐車場が少ない

南部公園

- ・大人も楽しめる健康遊具
- ・障がい者用の駐車場が少ない
- ・植樹活動(木陰を作る)

福祉グループ

- ・音声触知案内板が東口と西口にあり、点字表記がされていた。
- ・ホームに降りるための階段の手すりが2か所あって、使いやすい設計になっていた。
- ・駅内は全体的に視覚障がい者の方たちが利用しやすいように大きい文字・ユニバーサルデザインが様々なところに適用されていた。
- ・改札口は車いすの方も通れる専用の道があった。
- ・エレベーターの中に鏡、手すり、点字があった。
- ・公衆電話は子どもや車いすの方も利用できるように低い位置にあった。
- ・トイレは力が出ない方でも利用しやすいように押しボタン式になっていた。

環境(森林)グループ

- ・カミキリの穴があった。
- ・松はほぼ全滅。
- ・広葉樹が下の方で育っていた。
- ・直径60cmの木には900mLの薬を打っている。1本の木を守るのに約3万円。一度打つと約7年の効果がある。

環境(川)グループ

- ・川の中だけでなく、^{かせんじき}河川敷にもごみがある。
- ・花火などの燃えカスの処理もしてほしい。
- ・日本の川は急なので中に入る人はあまりいない。

グループごとにテーマ、松本市の現状と課題、提言の内容等について話し合いました。

福祉グループ

市への提言について

口提言のテーマ

口テーマに興味を持った理由

福祉と言ってしまっても種類があるのでどんなものがあるのか調べた。
松本市が具体的にどんな福祉活動をしているのか気になったから。
学校の特別道に障害者の方を見かけし心配になったが対応できず調べ
て見た所知らないマークなどがあり興味をもった。
ユニバーサルデザインや福祉をぐっしく知りたかった。
福祉のことを全く知らなかったのを調べてみたいと思った。

口松本市の現状(松本駅)

音声・触知案内板が東口・西口にあり点字表示もされてあったので利用し
やすいと思った。改札口は車いすの方が通れるように専用通路があった。
ホームに降りるための階段にすずりが2個あったので上り下りする時にスムーズにで
きる。エレベーターの中に鏡・すずり・点字があった。時刻表の文字表示が大きかった。
駅内は全体的に視覚障害者の方のために大きい文字・ユニバーサルデザインが採
用されていた。公衆電話は手帳や障害者の方も利用できるような低い位置にあった。
*トイレがかなりきれいだったので利用できるように177ボタンになっている。

口松本市の課題

口市への提言

環境(川)グループ

15) 7月 - 市への提言について

外来種 被害・やっ払い
外来種について知ってもらおう
外来種被害を減らす
植物園 展示、写真・実物

□提言のテーマ

(未定) 正しく、在来種(田舎)を守ろうと、外来種を守ろうと、おこらう方向になる。

□テーマに興味を持った理由

□松本市の現状

- ・安曇石持ち込めず、外来種が増える
- ・草等一本一本取ると、何処迄かたない
- ・外来種の数が少ないから、身近に何もない
- ・現状、課題を知らない人が多い
- 京福で在来種の苗種展示が行われていた

□松本市の課題

□市への提言



(第8期) 第9回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年9月30日

第8期の第9回まつもと子ども未来委員会を、令和4年9月25日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち 24 人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち1人のサポーターが出席しました。

1 広報まつもとへの出演について

11月にテレビ松本の「広報まつもと」で子どもの権利の推進についての放送があります。撮影に協力してくれる人を2人決めてもらいました。収録したものは11月7日からテレビ松本で放映される予定です。

2 活動テーマに関する話し合い、市への提言資料の作成

各グループで「テーマに興味を持った理由」「松本市の現状」「松本市の課題」「市への提言」について、今まで出た意見などを用紙にまとめてもらいました。用紙にまとめたグループから発表用にパワーポイントをまとめてもらいました。

PR グループ

理由:よい公園がたくさんあるのにPR があまりされていないから

現状:駐車場が少ない

課題:ルールの周知が不足している

提言:今までなかった子ども目線のPR

福祉グループ

理由:福祉に興味があったから

現状:音声、触知案内板があり、誰でも利用しやすい

課題:身体障がい者への配慮が未だ少ない

提言:保育園、小学校などでゲームを交えながらユニバーサルデザインを知ってもらう



環境(森林)グループ

理由:松本の山で枯^かれている部分が多いから

現状:松枯^{ひがい}れの被害が県内最多

課題:枯れた松があまり使われていない

提言:枯れた松で作ったものを学校や老人ホームの備^{びひん}品にする

環境(川)グループ

理由:作成中

現状:川の水がきれい

課題:特定外来生物^{とくていがいらいせいぶつ}の市民^{にんちど}への認知度が低い

提言:作成中

※ 作成中のパワーポイントから抜粋



(第8期) 第 10 回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年10月24日

第8期の第10回まつもと子ども未来委員会を、令和4年10月16日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち26人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち1人のサポーターが出席しました。

1 「松本子どもの権利の日」市民フォーラムの司会について

市民フォーラムの司会は松本市ジュニアリーダーと順番で担当しています。今年度は未来委員会が担当の番なので、司会を決めてもらいました。2人決めてもらい男女一人ずつ選んでもらいました。立候補してくれる子がたくさんいましたが、話し合いで決めてもらい、刈谷初花さんと滝澤智貴さんに決定しました。

2 活動テーマの話し合い、市への提言資料の作成

前回に引き続きグループごとに提言の準備を行いました。パワーポイントで表示する部分はかなりまとまってきたと思います。もう少し深掘りできる部分を改善出来たらさらによくなると思います。また、手分けをして、発表する内容の原稿を考えました。各グループ順調に準備が進んでいる様子です。次回もう少し改善をしてリハーサルに備えましょう。

3 市政広報番組の収録について

18日の学校が終わった後にテレビ松本の市政広報番組の収録に参加しました。代表者の石田鈴華さんと山田明文さんが、こども育成課の職員と一緒に収録をしました。2人とも事前に練習をしてくれたおかげで、ほぼ一発でOKをもらい、スムーズに撮影を終えることができました。

11月7日からテレビ松本と行政チャンネルで放映されます。テレビ松本では月～金の 10:30～、21:30～、行政チャンネルでは月～金の奇数時間の 05 分から15分間の放送があります。ぜひご覧ください。





(第8期) 第11回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年11月11日

第8期の第11回まつもと子ども未来委員会を、令和4年11月6日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち23人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち1人のサポーターが出席しました。

1 活動テーマの話し合い、市への提言資料の作成

前回に引き続きグループごとに提言の準備を行いました。原稿も出来上がってきて、担当決めなどをしました。グループによっては、具体的な例を出すなど、より良い提言になるようにさらに改良を加えました。パワーポイント、原稿、担当決めなど、順調に進んでいるようです。



松本市の現状

【PR方法】

- 松本市にはたくさんの公園があるのに知られていない
- ルールが守れない=知らない

【設備について】

- 駐車場が少ない
- 管理者が不足している



松本市の課題②

- 松枯れのことを知っている人が少ない。
- 松が枯れている面積が広い。
- 枯れた松があまり使われていない。



2 発表のリハーサルについて

後半では、作った資料と原稿で発表のリハーサルをグループごとしてもらいました。実際パワーポイントと合わせての発表だったので、原稿がつかえてしまったりしましたが、委員のみんなに見てもらうことができました。委員からも気になる部分などの意見をもらい、意見をもとにさらに修正を加えました。来週が会場でのリハーサル、再来週が発表本番になります。いい提言発表になるように頑張りましょう。





(第8期) 第12 回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年11月 14 日

第8期の第12回まつもと子ども未来委員会を、令和4年11月13日(日)に^{きんろうしゃふくし}勤労者福祉センター大会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち 22 人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち1人のサポーターが出席しました。

1 発表のリハーサルについて

発表本番に向けてリハーサルを行いました。全部通しで2回、発表してみました。

1回目は発表の雰囲気を感じてもらうように、立ち位置やマイクの受け渡し、話す順番などを確認しました。2回目は、本番を意識してスムーズにできるよう意識して、練習しました。

原稿の読みなどは、漢字が読めなかったり、つかえてしまったりする部分があったので、当日の発表まで各々練習してくるようになりました。

発表当日もリハーサルの時間があるので、本番の発表に向けて頑張りましょう！



テーマに興味を持った理由

- 松本市には公園がたくさんあるのにPRが不十分と感じたから
- PRに興味を持ったから
- 身近なのにあまり知られていないから
- 公園について調べてみて興味を持ったから

松本市の都市公園の割合 (全162か所)

【出典】 松本の公園 松本市公園緑地課

松本市の現状①

- 松枯れの被害が県内最多
- 松がどんどん減っている
- 被害が拡大している
- 健康不安のため 薬剤を散布できない
- 地球温暖化により被害が拡大している

松本市の被害量及び駆除本数、処理費用の推移



(第8期) まつもと子ども未来委員会の市への提言報告

令和4年12月8日

11月20日(日)、勤労者福祉センター大会議室で、第39回松本市青少年健全育成市民大会・「松本市子どもの権利の日」市民フォーラムが開催され、市への提言を行いました。この日は、37人の委員のうち、32人が出席して、発表しました。

1 市への提言



2 伊佐治教育長・臥雲市長のコメント

(1)福祉グループ

【教育長】

福祉を考える時は、想像力を働かせることが大切だと思います。10年位前に腰の手術をして、ゆっくりしか歩けないときには人の目が気になったりしました。そういったことに対して周りの人が配慮してくれる人、くれない人いろんな人がいると感じました。その経験をしたときに、普段障がいを持っている人に対して自分がどれだけ想像力を働かせることができるのかが大切だと思います。

公共施設のスロープの傾斜が統一されていないことは、実体験からも感じました。スムーズに身体を動かせない人には数センチの段差でも、乗り越えることができないということもあると思います。市の施設をつくるとき、改修するときに改めて徹底していくことが大事だと感じました。

ユニバーサルデザインやヘルプマークについても周知をしていくということが大事だと思います。皆さんでポスターなどを具体策として取り組んでもらいたいと思いました。そしてカルタを作るという提案は、とてもいいアイデアだと思います。ユニバーサルデザインやヘルプマークのことを入れたカルタで、楽しみながら知ることができれば保育園、小中学校で広がっていくのではと思いました。



障がいがある人の利用者数を分析して配慮策を考えて実行することについては、市の施設などで、どう配慮が必要なのかをみんなが共通の認識を持つようなポイントをまとめていくことが必要だということを、提言を通じて感じました。

【市長】

アンケートは担当課でも行っていますが、もっと意見を吸い上げられるような調査を、インターネットなどで行っていききたい。時代は変化しているので、障がいを持つ方が今必要なことは何なのかきめ細かく調査をしていかなければいけないことだと思っています。

ヘルプマークはそういった取り組みがあっても、よく知られていなかった。知っていてもどう手を差し伸べていいか、躊躇^{ちゅうちょ}してしまうことがあります。いろいろな形で周知をしていきたいと思います。

利用者数を分析^{ぶんせき}してどのようなところにどんな対策、支援策が必要なのかは、きめ細かく丁寧^{ていねい}に調査をして、その人に対してはどういう対策をしていくのかということを改めて考えなければいけないということを提案してもらったと思います。

今回は主に身体の障がいについてでしたが、心の障がいや、生まれた時からの障がいなど、障がいという言葉の範囲^{はんい}がすごく広いです。幅広く大勢^{はばひろ}の人たちに伝わるように取り組まなければいけないと思います。今回いただいた提言を皆さんの中でもより深めて、広げてもらいたいと思います。



(2)公園のPRグループ

【教育長】

事前に資料を見たときに、公園のPRが不十分という意見に対して、そんなことないと思いました。市外から訪^{おもとず}れる方もいるくらい人気の公園もあるということで、PRは十分だと思っていましたが、改めて市民が本当に魅力^{みりょく}を知っているかと思うと、まだまだPRが足りないと思い直しました。

ルール^{ルール}の書き方の工夫の提言がありましたが、平仮名だけにしたり、話し言葉で書いたりするという子どもたちにわかりやすいルールの案内板の提案も改めて必要だと思いました。イラストで楽しく、これは何だろうと思って見てもらえることも大事だなと思いました。

【市長】

公園について、知られていると思っていても本当に知りたいことがわからない状況になっているのではないかと考えさせられました。

私が一番面白いと思ったのはユニークな案内板の形にしてしまうという部分です。一番見てもらうには場所も大事だと思いますし、イラストにするなどのことも大事だと思いますが、形を面白くしたら、これはなんだろうと思って見てもらえて、公園の中の楽しい特徴^{とくちょう}の一つになるかなと思いました。



知らない公園にも行ってみようと思ってもらえるようにするにはどうしたらいいのだろう。という提言は、自分に合った公園に行ってもらえるようにする。学校でのプリント配布や回覧板、インターネットでLINEやHPで伝えることなど、あらゆることをもっとやらなければならないと思いました。

公園のパンフレットについては、もっと気軽に見てもらえる方法はいくらでもありますので、せっかく作ったらみんなに見てもらえるようにしたいと思います。松本市のYouTubeチャンネルは、市役所の1階にスタジオをつくって職員が活動やイベントをPRしています。皆さんが、公園のPR動画を作る

よと言ったら、受け入れますので、一緒にできればと思います。

管理者が不足している話ですが、草が生え放題になっていたり、利用しやすい状況になっていなかったりします。近くに住んでいる人たちが、草刈りをしてくれて管理に関わっている公園もあります。また、ぜひ皆さんにも小さなことでも身近な部分で公園づくりに関わってもらいえると嬉しいです。

(3)森林グループ

【教育長】

日本は森林が8割といわれています。そして、松本市も80%は森林だと思います。森林はそれだけ身近ですし、大切なものです。Co2削減や災害を防いだり、みんなの憩いの場であったりと日本人の生活に昔から切り離せないものだったと思います。未来を担っていく皆さんが、真正面から向き合ってくれたことがとても嬉しかったですし、勉強になりました。長い年月の中で見ると、自然の中の循環ということもあるかもしれないですが、ただ手をこまねていればいいというわけではありません。



枯れた松を使って、再利用していくことが、例えば売れたお金でワクチンを購入する、そして枯れた松の処理施設をつくるということは考えられることですし、循環型のことができればうまくいくのかなと思いました。ただ、枯れた松を切って下まで運んでくることが、とても難しいのかなと感じます。継続して考えてもらえたらありがたいかなと思いました。

そして、松枯れ対策のお金を増やす必要がある。課題の一番に述べてもらったことで、その通りだと思います。長野県は、森林に関する森林税を導入しています。これが全国の共通する課題だということで、令和6年度から森林環境税が、徴収されるようになります。まずこの税金を国内で有効に使っていくことが大切です。ただ地域によって事情が異なるので、松本にふさわしい使われ方、森林とともに生きていくための具体的な方策を、松本市としても本気で取り組んでいかなければと思います。皆さんも一緒にずっとテーマとして考えていただけたらありがたいと思いました。

【市長】

私が市長に就任して最初に手を付けたのが松枯れの問題でした。それは、皆さんが感じたように市内の松がどんどん枯れていって、空中散布で健康不安を感じる方がいたり、実際にそれを撒いても松枯れが止まらないということが続いたりして、もっと根本的なところから考え直さないといけないと思いました。



専門家などの皆さんに集まってもらい、今後どうしたらいいか考えてもらいました。重大なことは、松枯れはスピードを遅らせることができて、止めることはできない、基本的には自然の力にゆだねるしかないという話でした。木の寿命や環境の変化もあって、より枯れるスピードもあがるということが根本にあります。今は、新しい広葉樹に植え変えていかなければいけないという話でした。しかし、今生きている人にとっては、何十年も待ってられない部分もたくさんあります。枯れた木が大雨で流れて、近くに住んでいる方々に被害が出ることは防がなければいけません。枯れた松を早く除去し

て危険な場所をなくすこと、まだ枯れていない松を何とか早く切って活用につなげていくことも必要です。燃料に使うなどの使い道を見出していかなければいけないと思います。そういうところにもお金をかけていけないといけないと思います。やはり枯れる前使わなければいけないと思います。今できることと、何十年もかかることの両方の政策を考えているところです。

最後に今回皆さんがこのように興味を持ってもらったことが、これからの松枯れのあとの松本の森林をどう生まれ変わらせていくかというところの一番大事なところを皆さんが勉強してくれたと思います。こういう状況になったのは、大人が森林に関心を持たなくなったからです。そして、本当だったらもっと早い段階から手を入れなければいけなかったことができなかったことです。SDGsや^{だつたんそ}脱炭素社会ということで、もう一度森林とともに生きていこうという社会の考えが大きくなってきています。森林の再生のために、できることを一つずつやっていければと思います。

(4)河川グループ

【教育長】

先ほど紹介してもらった、オオキンケイギクは黄色いコスモスで、川の近くで咲いているのを見かけました。どちらかという^{きれい}綺麗だな、なんて思っていました^{にんしきぶそく}が、認識不足だったと思いました。そのことから、皆さん^{してき}指摘してくれたとおり、^{にんち}認知が低いと感じます。そして現状を知ってもらうために、ポスターや回覧板、チラシ配布と意見がありました。まず第一歩はPRの仕方だと思いますが、まだそれが足りていないと改めて気付かされました。回覧板でも先ほどのような写真入りのものがあるだけで、気づきがあると思いました。また、松本市は河川の

周りを自主的に清掃してくださる市民の皆さんが多いですが、下流だけで清掃活動をして上流から流れてくるとだめだということを発表で気付かされました。そして、嬉しかったのは、私たちができることということ提案してくれたことです。学校の友達に伝える、学校で発表することも必要だと思いますし、委員で^{くじょかつどう}駆除活動をするということまで提言してくれることはとてもうれしいと思いました。子どもたちが活動していると、大人は子どもたちがやっているから一緒にやろうというふうに活動できるのではないかと思います。



【市長】

教育長も指摘をしましたが、この特定外来植物のことをもっと大人、小学生中学生にも知ってもらうためにさらなる工夫をしていかなければいけないと思っています。この問題は、今すぐ何かがおかしくなることではないので、どうしても後回しにしてしまうことですが、この状態のままになってしまうと、何十年後かに自然に悪い影響が出て、今私たちが分かっていない問題が起きてくると思います。そういうことに率先して、大勢の人が取り組んでもらえる状況、環境を、提言を受けて作っていきたいと思います。^{じょきよ}除去の方法や準備するものなど、除去してもいいなと思ってくれる人たちに、やろうと思ってもらえるような情報を合わせて伝えていかなければいけないと思いました。大勢の人達に参加してもらい効果が出ることなので、除去に力を貸してくれる人を増やしていくということをぜひ一緒

になって進めていければと思います。

(5)総評

【教育長】

発表の時になって気づかされることが多いこと、そのことに対して私はどんなことをコメントできるか毎回ドキドキ、同時にわくわくしています。大人の中には「子どもが考えることでしょ」「子どもたちには子どもの世界がある」という人がいますが、皆さんの声に耳を傾けた時に、今までの自分の常識をもう一回疑うことも大事だと毎回気づかされます。子どもたちが考えることには、真実や新たな気づきがあると感じています。

委員長さんは高校3年生で、今年から成人が18歳になりましたので、この活動が終わった後は成人になります。改めて、未来委員会の活動は、子どもたちに市民の一人としてまちづくりに参加してほしいという願いを持っています。

皆さんの発表テーマの森林、公園、河川も生物の多様性ということでは、松本の町の魅力を形作っているどれも重要な要素だと思います。そして福祉も松本市のすべての人にやさしいまちづくりということを進めているので、松本の未来を考えるうえで全部重要な要素になると思います。そして、それを大人が用意したのではなく、見学したり、いろんな人の話を聞いたりして、たどり着いているということが、改めてすごいと思いました。

そして、今年のテーマもいいなと思いました。新しい松本を生きようというテーマに話し合ってもらいました。そして、話し合いの資料を見せていただいたら、パートナーシップ宣誓制度など新しいことに取り組んでいるから、新しい松本を生きようにしたと書いてありました。市長のもとで、デジタルやゼロカーボン、パートナーシップ宣誓制度など新しい街の変化を子どもたちが感じていてくれるということをとてうれしく思いました。それから、今年の2月に策定をした松本市の教育大綱には、子どもが主人公学都松本。学都松本のシンカということテーマに定めています。まさに新しい松本の姿は、子どもが真ん中にあることですし、それを体現してくれているのが未来委員会の皆さんの活動だと思います。ぜひ一市民としてこれからも、活動や研究を進めてほしいと思います。

【市長】

この未来委員会の活動は楽しいですか。苦しいこと、大変なこともありますよね。でも、みんな大変なことよりも楽しいことの方が大きいですよ。それはすごくうれしいです。

今、学校の授業や学びという部分は、未来委員会の皆さんがやっているような学びが、授業に広がっていくと思っています。未来委員会の皆さんがやっている、「何が問題で、どうやったら課題が解決できるのだろう」ということを学ぶことを勉強の中心にしなければいけないと、今学校が大きく変わろうとしています。普段の学校でも未来委員会の活動に近いことをやる時間が増えていくというふうに思います。問題を見つけて、それをよくするためにはどうすればいいんだろう。答えが必ず1つあるということではないかもしれないことに、取り組んでいくことは楽しいと思ってもらえれば、私たち大人にとっても嬉しいことだなと思います。

先ほどもインターネットやスマートフォンの話をしましたが、私たちが子どもの頃に何かを調べようと思うと辞書、百科事典で調べました。しかし、だんだん古くなってしまい、新しい情報が分からない。今はインターネットを通じて、いつでも、どこでも、だれでも新しいことや昔のことを調べて勉強しようと思うとできるような環境が整っています。一人一台端末^{たんまつ}ということで、タブレットやパソコンを貸^かし出しています。学校の中だけではなくて、未来委員会の活動を広げていくために存分に利用してもらいたいと思います。松本市役所がやるべきことは、今回皆さんが立てた「新しい松本を生きよう」ということのお手伝いをしっかりとやっていくことだと思います。手伝いと言い過ぎかな、皆さんと一緒に新しい松本を生きていくということをしていかなければいけないと思います。またこれから次に向けて、いろんなことを活動したり、卒業をして次のステージを頑張ろうとしたりする人もいますが、ぜひ楽しい気持ちを忘れずにこれからも勉強や学びも遊びもしてもらいたいと思います。



(第8期) 第13回まつもと子ども未来委員会の報告

令和4年12月12日

第8期の第13回まつもと子ども未来委員会を、令和4年12月11日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち 24 人の委員が参加しました。また5人の大学生サポーターのうち1人のサポーターが出席しました。

1 市への提言の振り返り

11月20日に開催された「松本子どもの権利の日」市民フォーラムで行った、市への提言の振り返りを行いました。個人、グループ、全体について、良かった点、反省点を振り返りました。また、市長、教育長のコメントを聞いて感じたことをまとめました。

～ 良かったところ ～

【個人】 ・ ハキハキ話せた ・ 前を向いて堂々と囁まずに言えた

- ・ パワポがよくできた ・ 相手の事を見て話せた
- ・ 静かに発表を聞けた ・ 人との交代がうまくできた
- ・ ゆっくり言えた ・ 恥ずかしがらずにできた ・ 漢字の読み間違えがなかった

【グループ】 ・ 聞きやすく言えてよかった ・ 下を向かないように気を付けた

- ・ ハキハキ大きな声で話せた ・ スムーズにマイクの受け渡しができた
- ・ 次はどうするか、考えて行動できた ・ あまり間違えずにできた ・ クイズが良かった

【全体】 ・ みんなが真剣にやって集中していた ・ 話がまとまっていた

- ・ 提言外の時も、話したりせずに、しっかり聞けた ・ 大きな声で聞こえやすく発表できた



～ 反省点 ～

【個人】 ・ 原稿を見る回数が多かった

- ・ 少しかんだ、間違えた、声が小さかった
- ・ 早口になってしまった ・ 発表というより説明になってしまっていた
- ・ 市長、教育長の方を向けばよかった ・ 友人に注意をできなかった

【グループ】 ・ パワーポイントに色どりがすくなかった ・ 緊張していた

- ・ 声が小さかった ・ 声の大きさが統一されていなかった

【全体】 ・ 話すのが早く、声をはっきりしていなかった ・ 居眠りしている人がいた

- ・ 聞き取れないところが多かった ・ 動きや流れが最後まで決まらないところがあった



～ 市長・教育長のコメントを聞いて感じたこと ～

【福祉】

- ・ 意見を聞いて、改めて納得した ・ 私たちの提案に共感してくれていた
- ・ 「障がい」という言葉が示す範囲は広いんだという新しい発見があった
- ・ 障がい者のためにできることを探したい



【公園】

- ・ 自分たちの提言を受け止めてもらえてよかった
- ・ いいアイデアといってもらってうれしかった
- ・ PR 動画など、来年度以降取り組めたらと思う



【森林】

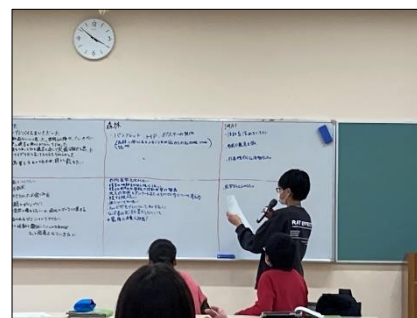
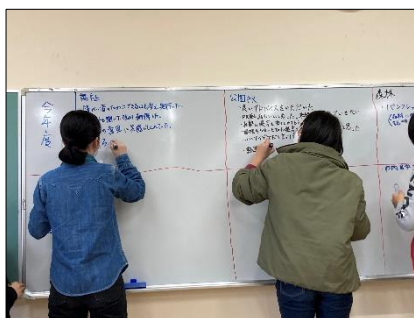
- ・ パンフレット、HP、ポスターの作成
(市民に森林への関心を持ってもらうため、森林税についての説明)

【河川】

- ・ 活動を深めていきたい ・ 外来種の駆除活動をしたい

～ 今後どのように活動していきたいか ～

- ・ 活動がマンネリ化しないように対策を取りながら活動したい
- ・ 提言したことをボランティア活動として活動する
- ・ 提案したことを実際に活動してみたい ・ 動画を作りたい
- ・ 手話教室 ・ 市内見学を増やしたい ・ ゴミ拾い活動
- ・ 今年の活動と類似するものについてはさらに発展させていきたい
- ・ 提言の時期の見直し ・ 提言+市内の小中学校で活動の発表
- ・ 海やショッピングモールについて知りたい ・ お楽しみ会





(第8期) 第14回まつもと子ども未来委員会の報告

令和5年1月18日

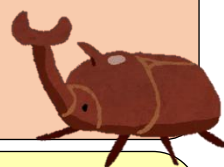
第8期の第14回まつもと子ども未来委員会を、令和5年1月15日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち23人の委員が参加しました。

1 アルプス公園の魅力向上について

アルプス公園魅力向上検討会議から依頼を受け、アルプス公園の魅力向上についてのワークショップを行いました。はじめにアルプス公園について説明をもらい、その後3つの班に分かれて公園の魅力、公園の課題、公園への希望について意見を出し合いました。付箋にアルプス公園について思っていることを書き、公園の地図に貼り付けていきました。その付箋と地図を参考に意見をまとめ、こんな公園になったらいいなというテーマを班ごとに考えてもらい、発表しました。

～ 公園の魅力 ～

- ・ 遊具が多く、いろんな遊びができる
- ・ 生き物がたくさんいて、見たり触ったりできる
- ・ 広くて自然が豊か
- ・ 子どもから大人まで楽しめる
- ・ ドリームコースター楽しい
- ・ 自然に囲まれているため、四季を感じることができる
- ・ 広い
- ・ 無料
- ・ 広いから周りを気にせずボール遊びができる



～ 公園の課題 ～

- ・ 食べ物や飲み物を買えるところが少ない
- ・ 音楽広場があまり使われていない
- ・ 長いローラーコースターはいいが、戻るのが大変
- ・ トイレが少ない気がする
- ・ 知られているところと知られていないところの差が大きい
- ・ 公園まで行きにくい
- ・ 展望台に行っている人が少ない気がする
- ・ イベント情報などを発信してほしい
- ・ 公園に行ったことがあっても知らないところがある
- ・ 屋内休憩所が少ない



～ 公園への希望・提案 ～

- ・ アトラクションを増やしてほしい
- ・ 道具をレンタルしてほしい(自転車や遊び道具)
- ・ 交通機関が欲しい
- ・ イルミネーションやお祭りをしてほしい
- ・ お土産みやげを売っているお店やCaféカフェなどがほしい
- ・ 池などに魚を入れてほしい(釣りなどもしたい)
- ・ 水辺広場を長くしてほしい



～ 各班が考えたテーマ ～

- A チーム 『 全世代が楽しめる公園 ・ 一人一人が楽しめる公園
・ 交流の場になる公園 』
- B チーム 『 自然の中で1日中楽しめる公園! 』
- C チーム 『 どんな人でも行きやすい公園 』



2 市への提言に対する関係課の回答について

11月20日に行った市への提言に対する関係課の回答について話し合いました。次期の委員会に活かそうなことなどを発表してもらいました。

福祉グループ

- ・ 提言した中で、すでに取り組んでいたものが多かったので、次期の委員会も使いながら自分たちでできることを考えて深めていきたい。

PR グループ

- ・ ルールの案内板については、今後の検討に参加出来たらいいと思う。
- ・ ユニークな形の看板について、他市に導入事例があるか調査したいという回答でしたが、導入事例がないから松本市もやらないというというのはやめてほしい。
- ・ 公園のパンフレットを市のホームページに掲載するとの回答をもらえてよかった

環境(森林)グループ

- ・ 処理した木を薪まきなどにして、販売してお金を儲もうけることは難むずかしいということが分かったので、何か違う方法を考えたい。
- ・ パンフレットを見かけたことがないので、強化してほしい

環境(河川)グループ

- ・ 次期にしたいこと : 駆除活動くじょかつどう。外来種についてもっと調べる。
長野県だけではなく、他のところも視野に入れて活動したい。



(第8期) 第15 回まつもと子ども未来委員会の報告

令和5年2月7日

第8期の第15回まつもと子ども未来委員会を、令和5年2月5日(日)に勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち20人の委員が参加しました。

1 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集いについて

2月19日(日)に開催される「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」の第1分科会から、未来委員の参加の依頼がありました。第1分科会は、「子どもたちの生きる力を高めるために～地域を舞台とした体験・学びから見えるもの～」をテーマとしており、当日は未来委員が委員会の活動について発表します。

滝澤 智貴さん、刈谷 初花さん、山田 明文さんが当日の発表に協力してくれることになりました。

2 次期委員の募集方法について

次期委員の募集方法について、皆さんに意見を出してもらいました。募集方法や、チラシを作るなら誰が作るのか、どんなことを周知したらいいのかを話し合ってもらいました。

～出された意見～(抜粋)

周知方法 : 広報まつもと、市のホームページ、LINE、Twitter、Facebook、TikTok、チラシ

チラシの作成 : 絵の得意な人が代表で作る、昨年のチラシを編集して使う、小学生・中高生版で分ける、全員で作る

チラシに載せること : 活動内容、開催日時、提言内容、募集範囲、写真、他校の人とつながれる

その他 : 委員が学校で宣伝する、インターネットとチラシでの申し込み、SNSを駆使して宣伝、宣伝動画を作ってみたら

⇒ チラシの作成は小学生版を荒井 結人さん、中高生版を鈴木 柚葉さんが担当してくれることになりました。



3 次期委員会の活動について

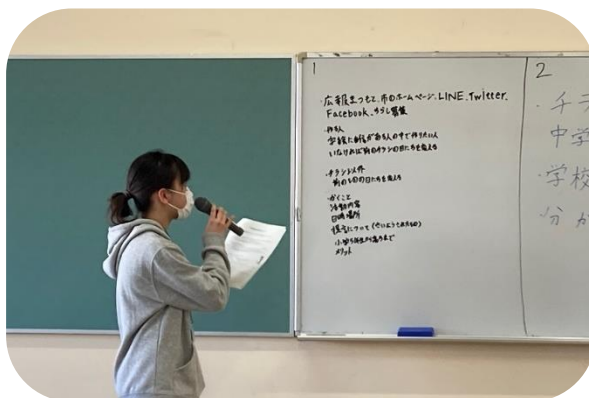
次期委員会の活動でどんなことをやりたいか、変えたほうがいいことはあるかなどを話し合って発表してもらいました。

～ 次期委員会でやりたいこと ～

- ・ 施設見学 ・ 提言したことを実行に移す ・ 生物のことを知る
- ・ 福祉 ・ PR ・ 「松本市の嫌いなところ」を調べ、解決策を考える
- ・ 校則見直し ・ 食べ物(郷土食や名産品) ・ 経済 ・ 現地調査
- ・ 市役所庁舎のPR(小学生などにとって、市役所は未踏の地だから動画などでPRしたい)
- ・ 市役所の職員との意見交換 ・ 目の不自由は人の生活について ・ いろんな地域との交流

～ 変えたほうがいいこと ～

- ・ 施設見学を増やす ・ 提言をした後実行に移したい
- ・ 個人で考える→グループで話し合う→全体での発表ではなく、初めからグループの話し合いでもいいのか
- ・ 全員が話し合いに参加できるようにする





(第8期) 第16回まつもと子ども未来委員会の報告

令和5年3月14日

第8期の第16回まつもと子ども未来委員会を、令和5年3月12日(日)に^{きんろうしやふくし}勤労者福祉センター3-3会議室で行いました。この日は、37人の委員のうち27人の委員が参加しました。

1 第8期委員会の振り返り

委員会を通して、①学んだこと・成長したこと、②がんばったこと、③反省点について、市への提言グループごとに話し合ってもらいました。

①学んだこと・成長したこと

- ・松本市の福祉の現状
- ・障がいを持った方への配慮
- ・意見のまとめ方
- ・聞く姿勢
- ・コミュニケーション能力
- ・発表の仕方、話のまとめ方
- ・人前で話すことになれた
- ・身近なところに課題があって毎日の取り組みにより少しずつ良くなっていくこと

②がんばったこと

- ・現状を知ったうえで課題を出せた
- ・仲間とのコミュニケーション
- ・意見を出すこと
- ・話し合いのメモ取り、まとめ
- ・人前でハキハキと話すこと
- ・調べること
- ・パワーポイントで要点をまとめて書くこと
- ・自分の意見をたくさん言えた

③反省点

- ・もう少し知識を持ちたい
- ・実践的な取り組みをしたうえで提言に向かいたい
- ・意見を積極的に出せなかった
- ・提言後の活動
- ・担当者への質問
- ・遊んでいる人がいた
- ・考えが浅かった
- ・もっと積極的に話し合いたかった



2 修了証の授与

松本市こども育成課長から、第8期まつもと子ども未来委員会修了証が授与されました。



3 感想（未来委員会に参加して）

- ・提言の発表が緊張した
- ・グループの話し合いが良かった
- ・市内見学が楽しかった
- ・委員同士のふれあいが良かった
- ・川の生態を学んだ
- ・人前で話すことになれた
- ・アルプス公園についていろいろ話せて良かった
- ・松本のことを学べた
- ・福祉のことを学べた
- ・全部楽しかった
- ・提言の時、協力できて良かった
- ・1年間の活動を形にできて良かった
- ・人によって意見が違うことを知ることができた
- ・年齢幅があって楽しかった
- ・久しぶりに委員会に来て受け入れてもらえた
- ・身の回りの課題を見つけて解決に向けて取り組むことは大切、これからも活かしたい
- ・最初は意見を言えなかったが言えるようになった、これからの社会生活に役立つと思う
- ・未来委員会に参加してできた人のつながりを大切にしたい
- ・8期まで続いてきて悪い慣れも生じている、初心にかえて活動したい
- ・年齢差を感じない和やかなムードは良い、コロナ禍を経てもっと視野を広げたい、このままでいいのか考えてメリハリをもって活動したい



第8期委員会の活動は、今回で終了となります。

VI その他の活動

1 子どもの権利についてのテレビ収録

テレビ松本の市政広報番組において、子どもの権利の周知啓発の放送を行うことになり、委員の皆さんに出演をお願いしました。多くの委員が手を挙げてくれましたが、出演人数に限りがあるため、話し合って代表2人に収録に参加してもらいました。

内容は、子どもの権利擁護委員や子どもの権利相談室「こころの鈴」の説明、未来委員会の活動の紹介、子どもの権利ウィークや「松本子どもの権利の日」市民フォーラムのお知らせなど、盛りだくさんの内容でしたが、事前練習の成果もあり、スムーズに説明することができました。



2 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

この集会は、各地で取り組みを展開する住民・職員が一堂に会し、身近な地域や生活・暮らしの課題について共に考え、互いに学びあうことで“気づき”や“つながり”を持ち帰り、再び地域の実践に生かしていくことを目的として開催されるものです。

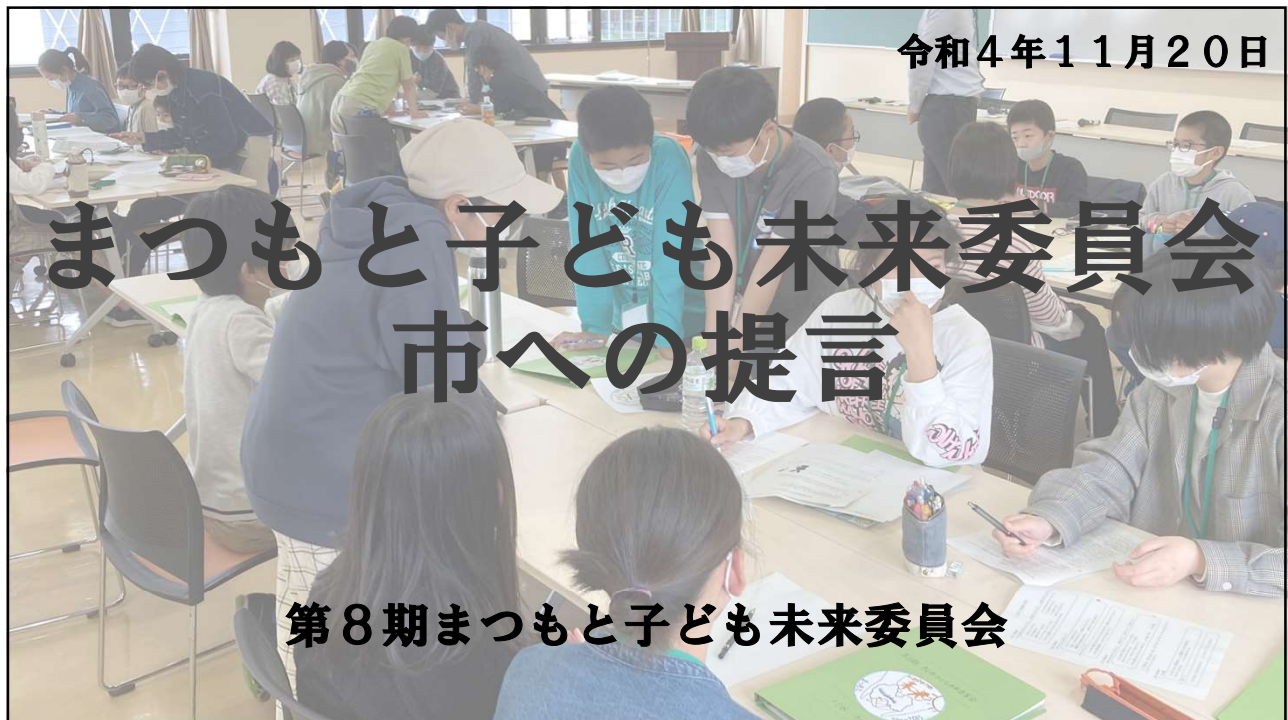
テーマごとに分科会が設置され、その内の第1分科会から、未来委員へ参加の依頼がありました。第1分科会のテーマは、「子どもたちの生きる力を高めるために～地域を舞台とした体験・学びから見えるもの～」で、未来委員会から3人が参加して委員会の活動内容などを発表しました。

事例発表の後には、参加者の方々と交えて意見交換会が行われました。参加者の多くが大人という状況でしたが、堂々と自分の意見を発表することができました。



Ⅶ 資料

1 市への提言



まつもと子ども未来委員会とは…？



- ◆ 「**松本市子どもの権利に関する条例**」に基づいて開催
- ◆ **小学5年～高校3年生**
学校・地域・年代を越えて活動しています！
- ◆ 松本市の取り組みや、
地域の課題を学び、話し合い、
松本のまちづくりを
自分たちで考えています



未来委員会のマークについて

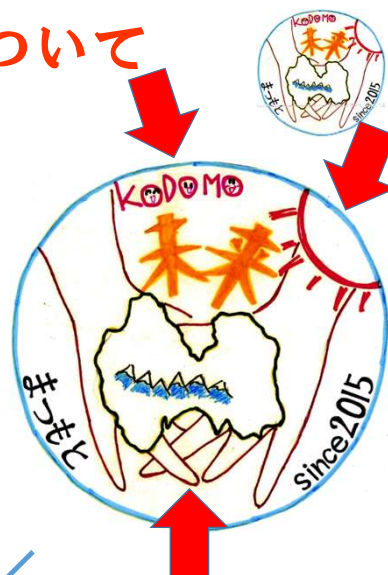
マークに込めた想い

／笑顔でいっぱいになりたい／

⇒KODOMOの“O”が笑顔になっている

／松本と松本の自然を大切にしたい／

⇒手の中に松本、山と太陽 ▲



未来委員会7か条

- 1 自分の考えを持つ
- 2 他の人の意見をしっかり聞く
- 3 互いを認め合う
- 4 積極的に取り組む
- 5 コミュニケーションを大切にす
- 6 松本をよく知る
- 7 楽しく委員会に参加する

第4期の未来委員が
自分たちで考えました！



第8期の未来委員会



◆ 活動期間

令和4年4月～令和5年3月

◆ 委員

37人（小学生18人、中学生14人、高校生5人）

→ 継続25人、新規12人

◆ 大学生サポーター

5人（信州大学3人、松本大学1人、松本短期大学1人）

第8期のスローガン

新しい松本を
生きよう





市への提言

提言に向けた活動



- ◆ 自分たちが興味を持った事柄について、学習し、自分たちの考えをまとめる

福祉

公園の
P R

森林の
環境

河川の
環境

福祉グループ



テーマに興味を持った理由



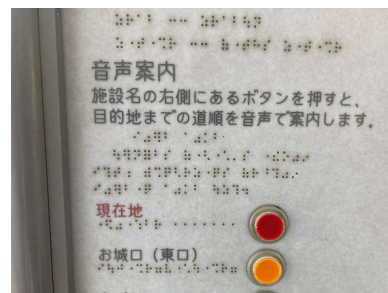
- ・福祉とは何かを知りたいと思ったから
- ・障がいのある人に寄り添いたいと考えたから



松本市（松本駅）の現状



- ・ 音声、触知案内板があり、誰でも利用しやすくなっている
- ・ 車いすの方が通りやすいように道が整備されている
- ・ 視覚障がい者の方への配慮が多くあり、ユニバーサルデザインが多く使われている



松本市の課題



- ① 身体障がい者への配慮がまだ少ない
- ② 障がいのある人が助けを必要としているのか、周りの人が分からない
- ③ ユニバーサルデザインに関するマークの認知度が低い
- ④ 公共施設のスロープの傾斜が統一されていない



クイズ 2つのマークはどんなことを
表しているでしょうか？



①



②

市への提言



- ① 障がいのある方々や介助している人たちに
アンケート調査をして何が一番必要なのかを
考えて実行する

- ② 周りの助けがほしい人に、助けて
ほしいことが分かるようなタグを配付する
タグの内容をまとめたポスターを作る





市への提言

- ③ ・ 保育園、学校などでゲームを交えながら
ユニバーサルデザインに関するマークを
知ってもらう
・ ユニバーサルデザインに関するマークを
まとめた冊子の配付
- ④ 障がいがある人の利用者数を分析して
配慮策を考えて実行する



公園のPRグループ

浅輪奏仁
河田美紅
根本怜奈

石田鈴華
高岡瑞希
藤池春妃

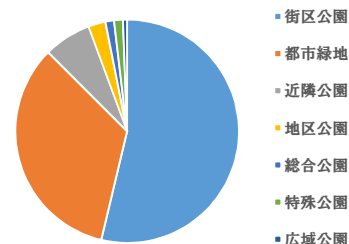
沖本悠真
滝川未央
山田明文



テーマに興味を持った理由

- 松本市には公園がたくさんあるのにPRが不十分と感じたから
- PRに興味を持ったから
- 身近なのにあまり知られていないから
- 公園について調べてみて興味を持ったから

松本市の都市公園の割合
(全162か所)



【出典】 松本の公園 松本市公園緑地課

松本市の現状

- 松本市にはたくさんの公園があるのに知られていない
- ルールが守れない＝知らない
- 駐車場が少ない
- 管理者が不足している



松本市の課題

・駐車場が少ない

駐車場がなくて公園に行くのを断念してしまう
一方、駐輪場は逆に余っている



・ルールが守れない、知らない

インターネットを見ないと分からないルール＝
公園に設置されているルールの看板のみでは
分からない



市への提言①

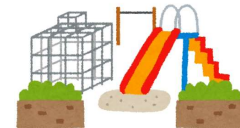
○ルールの書き方の工夫

子どもに分かりやすいルールの案内板

- ・漢字をなくし、平仮名だけ
- ・話し言葉で書く
- ・イラスト（4コマ漫画など）にし、見ただけで
どんなルールを伝えたいのかが分かるようにする
- ・子どもが見やすい色
- ・ユニークな案内板の形
- ・案内板そのものを遊具にする

○看板の設置箇所の改善

- ➡ベンチや四阿（あずまや）の近くなど
目につきやすい場所





市への提言②

市の公園緑地課にしか置かれていないパンフレットを

- ・市内の小中学校に設置する、プリントを配布する
- ・松本市内の回覧板に挟む ・松本市のHPに掲載する
- ・松本市の公式LINEに送信する
- ・松本市の公式YouTubeで動画を投稿する
- ・イベントのパンフレットが設置されている市内の公共施設などにこの公園のパンフレットを追加する

森林の環境グループ

浅井	想矢	荒井	結人	大澤	悠
岡本	結花	刈谷	初花	杉野	広樹
藤池	夏希	堀	大希		
丸山	日和	山田	夢佐志		

テーマに興味を持った理由



- ・ 松本の山で枯れている部分が大きいから
- ・ 松が枯れて最近問題になってるから
- ・ 松本は山が多い
- ・ 森が好き
- ・ 松枯れがひどいから
- ・ 松枯れの問題を解決したら、ほかの森林の問題の解決につながると思ったから



松枯れとは？



- ・ 多くの原因は、松くい虫による被害で発生
- ・ マツノマダラカミキリがマツノザイセンチュウを木から木へ運び、マツノザイセンチュウが幹の中で爆発的に繁殖します
- ・ センチュウが松が水を吸い上げる機能を阻害してしまうため、松が弱って枯れてしまう

松本市の現状①

- ・ 松枯れの被害が県内最多
- ・ 松がどんどん減っている
- ・ 被害が拡大している
- ・ 健康不安のため
薬剤を散布できない
- ・ 地球温暖化により被害が
拡大している

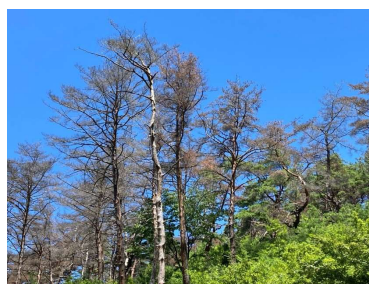


松本市の被害量及び駆除本数、
処理費用の推移



松本市の現状②

- ・ お金と、人手が不足している
- ・ 伐採した松が使われていない
- ・ 松が枯れて森林の色が変わっている
- ・ ワクチンの値段が高い





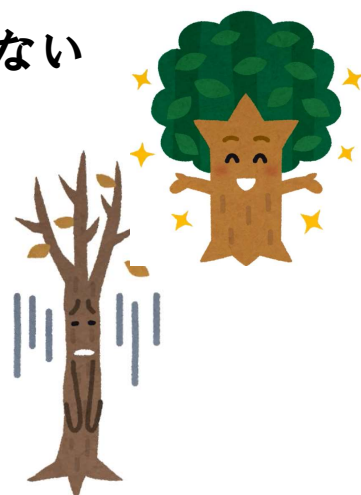
松本市の課題①

- ・ 松枯れ対策のお金を増やす必要がある
- ・ 健康不安によって薬剤散布ができない
- ・ 松枯れ対策に人が集まらない



松本市の課題②

- ・ 松枯れのことを知っている人が少ない
関心がない
- ・ 松が枯れている面積が広い
- ・ 枯れた松があまり使われていない



市への提言



- ・市民に知ってもらう。
→パンフレット、HP、ポスター
- ・枯れた松を使ってBBQの木炭や薪に再利用、販売
- ・薪が売れたお金で、松枯れ防止用のワクチンを購入したり、枯れた松の処理施設を作る
- ・枯れた松を燃料にして市の公共施設の暖房や発電に使用
- ・クラウドファンディングで資金を集めて松枯れ対策に使う

河川環境グループ

伊藤	英怜奈	大沢	篤士	小野	航平
竹内	幸兎	根本	文瑠	橋本	昂賢
藤崎	晋一郎	藤崎	悠理	山脇	悠誠

テーマに興味を持った理由



松本市の現状



外来植物が多い！

なぜ外来植物がダメなの？



- ・繁殖しすぎて元々いた生物に影響
→生態系のバランス、生物多様性を崩してしまう

- ・人間への害がある



なぜ外来植物がダメなの？



松本市の課題

認知が低い！



多くの人に現状を知ってもらう

みんなで松本市の生態系を守る！

特定外来生物の 駆除にご協力ください！！

特定外来生物とは、もともとその地域になかったのに、人の手によって他の地域からもちこまれ、他の生物が育つのをさまたげたり、農作物に被害を与えたりします。松本市では特に4つの植物の駆除をお願いしています。

オオキンケイギク

春から夏にかけて直径5～7cmの黄色い花を咲かせる。河川敷、道ばたの日当たりの良い場所には生息する。花が長く細く（長さ10cm以上）に駆除することが効果的。

アレチウリ

成長速度が非常に早いつる性植物で、長いものは10m以上になる。葉は8～10月、黄白色（6月頃）の小さな輪状の葉が特徴的。

駆除してください！

オオカブデシャ

4～9月に直径5mm程度の淡い黄色の花を咲かせる。河川の岸や湿地に生息する。大きくると1mを超えるので、小さなうちに駆除することが効果的。

オオハンゴンソウ

農耕地や上流地など、標高の高い場所に生息する。赤紫色の花と緑色の葉が特徴的。駆除するおそれがある。花が咲く前（7月中旬）の駆除が効果的。

【注】 松本市河川をきれいにする会連絡協議会・松本市環境衛生協議会連合会
TEL: 0263-34-3024 (直通) E-mail: kankyo-k@city.matsumoto.lg.jp

市への提言

外来植物の現状を知ってもらう



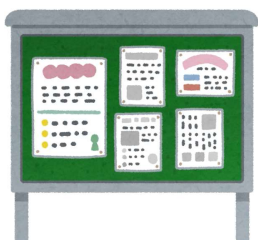
ポスターを貼る

学校でチラシ配付

回覧板に挟み込む

看板を建てる

など更なる工夫を！





市への提言

下流の外来植物を駆除しても、
上流から種が流れてくるとまた増える！



上流から下流まで
広範囲＋継続的に駆除活動を



私たちにできること

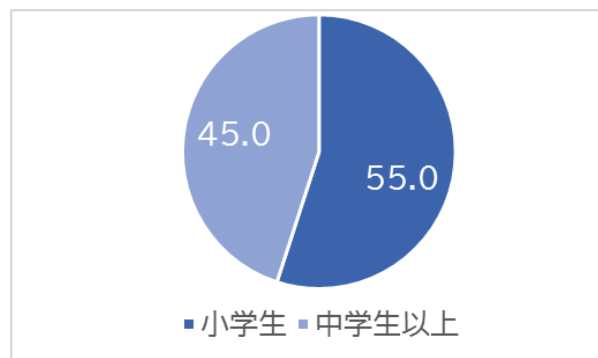
- ・学校の友達に伝えてみる
- ・委員会で駆除活動をする
- ・外来植物についてさらに学ぶ



2 未来委員初回アンケート

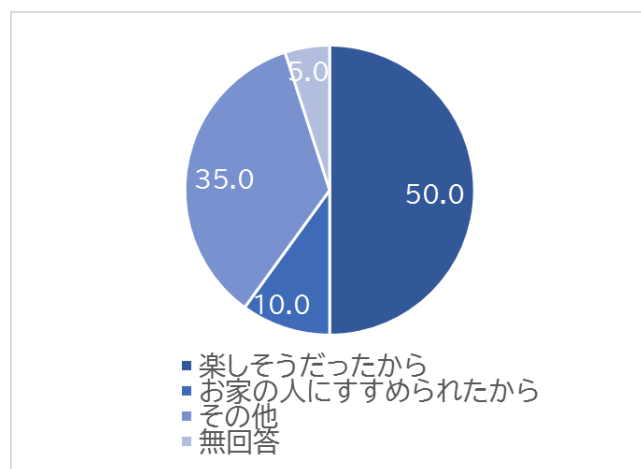
学年

	人数	割合(%)
小学生	11	55.0
中学生以上	9	45.0
合 計	20	100.0



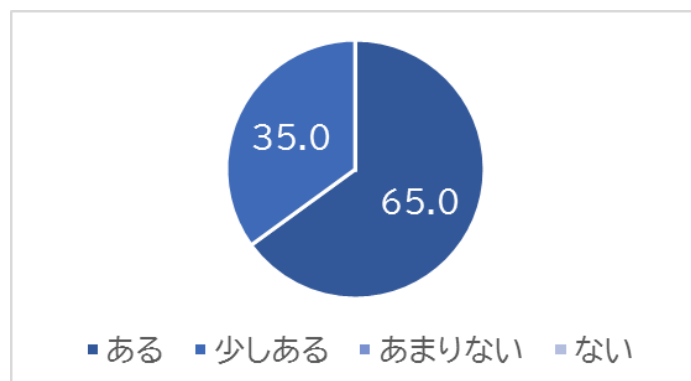
参加のきっかけ

	人数	割合(%)
楽しそうだったから	10	50.0
お家の人にすすめられたから	2	10.0
その他	7	35.0
無回答	1	5.0
合 計	20	100.0



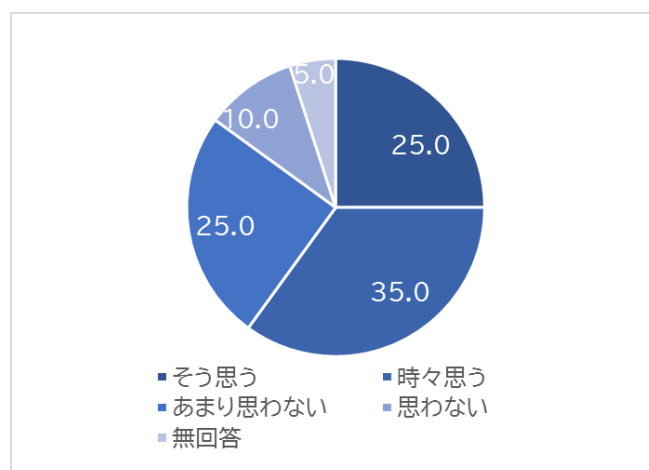
松本市への興味・関心

	人数	割合(%)
ある	13	65.0
少しある	7	35.0
あまりない	0	0.0
ない	0	0.0
合 計	20	100.0



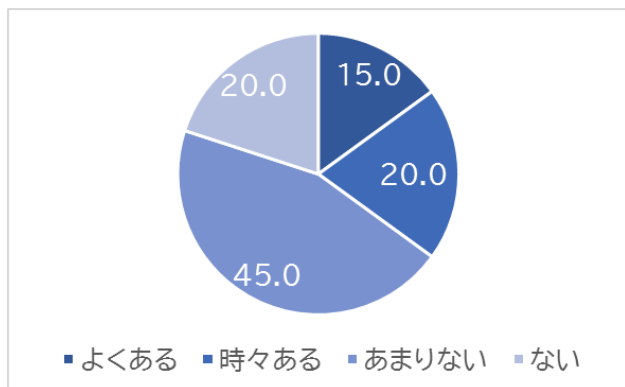
人前で発言することを恥ずかしいと思うか

	人数	割合(%)
そう思う	5	25.0
時々思う	7	35.0
あまり思わない	5	25.0
思わない	2	10.0
無回答	1	5.0



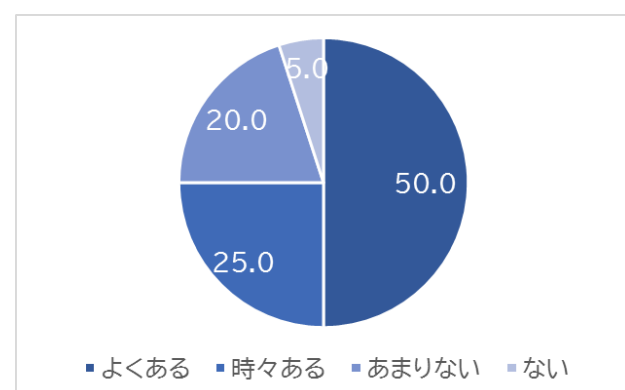
自分の言いたいことが言えないことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	3	15.0
時々ある	4	20.0
あまりない	9	45.0
ない	4	20.0
合 計	20	100.0



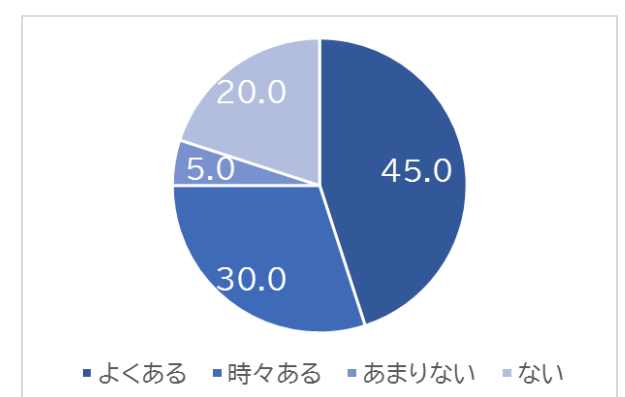
家庭で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	10	50.0
時々ある	5	25.0
あまりない	4	20.0
ない	1	5.0
合 計	20	100.0



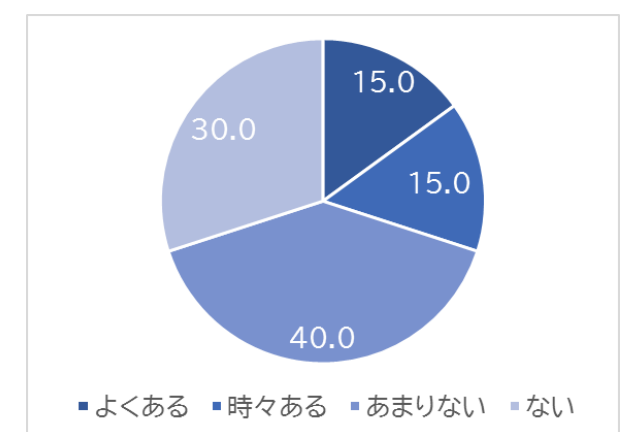
学校で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	9	45.0
時々ある	6	30.0
あまりない	1	5.0
ない	4	20.0
合 計	20	100.0



地区で自分の意見を言うことがあるか

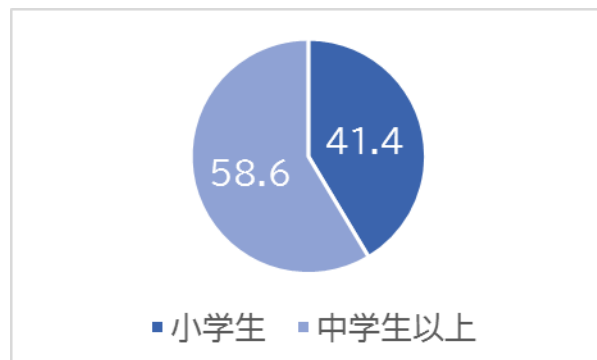
	人数	割合(%)
よくある	3	15.0
時々ある	3	15.0
あまりない	8	40.0
ない	6	30.0
合 計	20	100.0



3 未来委員最終回アンケート

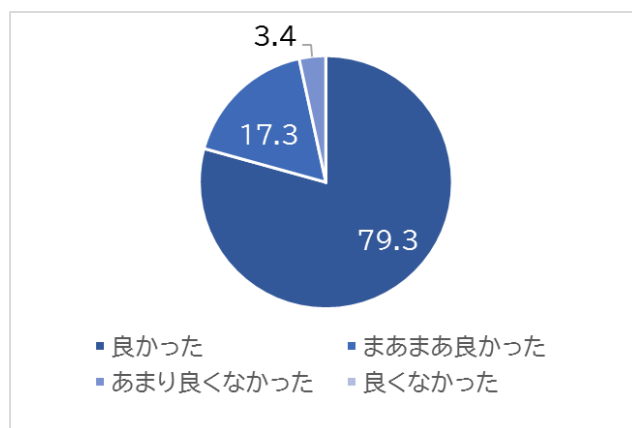
学年

	人数	割合(%)
小学生	12	41.4
中学生以上	17	58.6
合 計	29	100.0



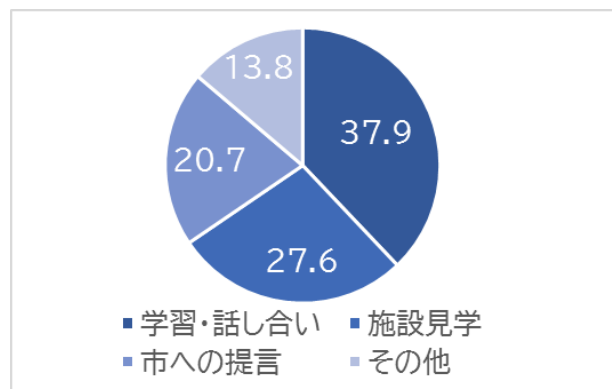
委員会の感想

	人数	割合(%)
良かった	23	79.3
まあまあ良かった	5	17.3
あまり良くなかった	1	3.4
良くなかった	0	0.0
合 計	29	100.0



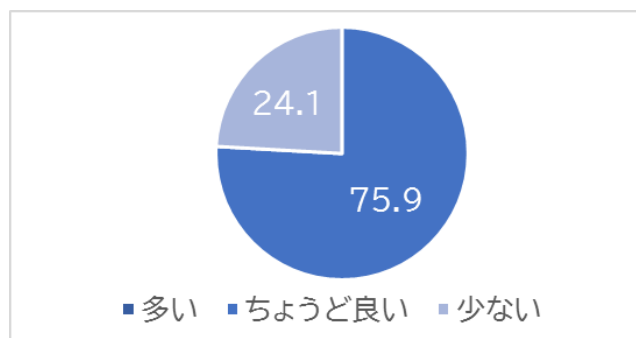
一番思い出に残っていること

	人数	割合(%)
学習・話し合い	11	37.9
施設見学	8	27.6
市への提言	6	20.7
その他	4	13.8
合 計	29	100.0



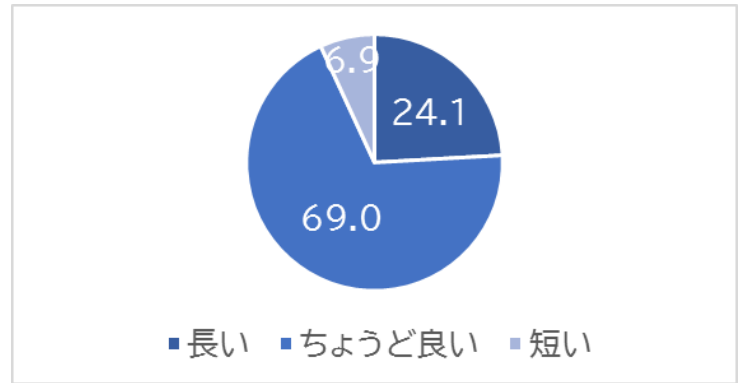
委員会の回数について

	人数	割合(%)
多い	0	0.0
ちょうど良い	22	75.9
少ない	7	24.1
合計	29	100.0



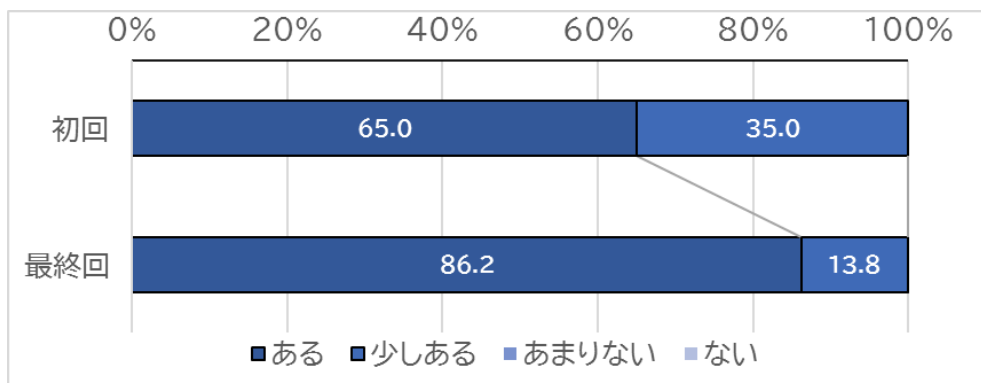
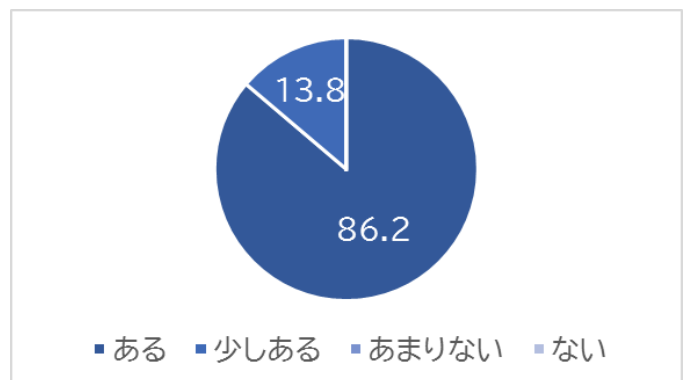
委員会の時間について

	人数	割合(%)
長い	7	24.1
ちょうど良い	20	69.0
短い	2	6.9
合計	29	100.0



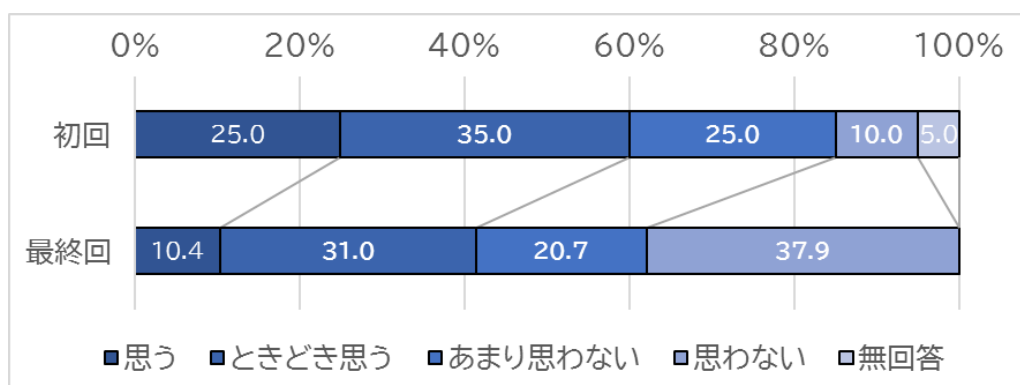
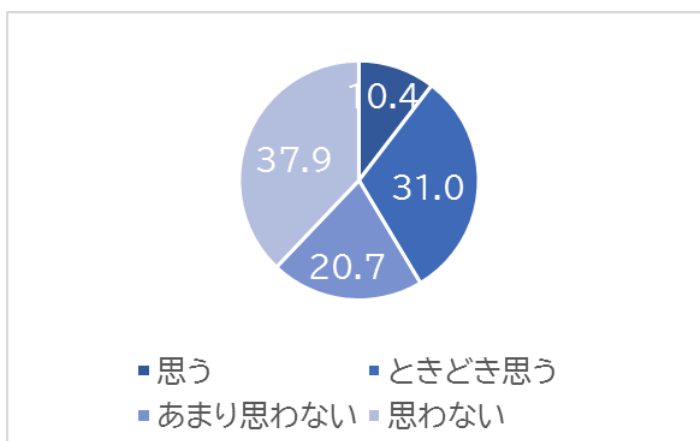
松本市への興味・関心

	人数	割合(%)
ある	25	86.2
少しある	4	13.8
あまりない	0	0.0
ない	0	0.0
合 計	29	100.0



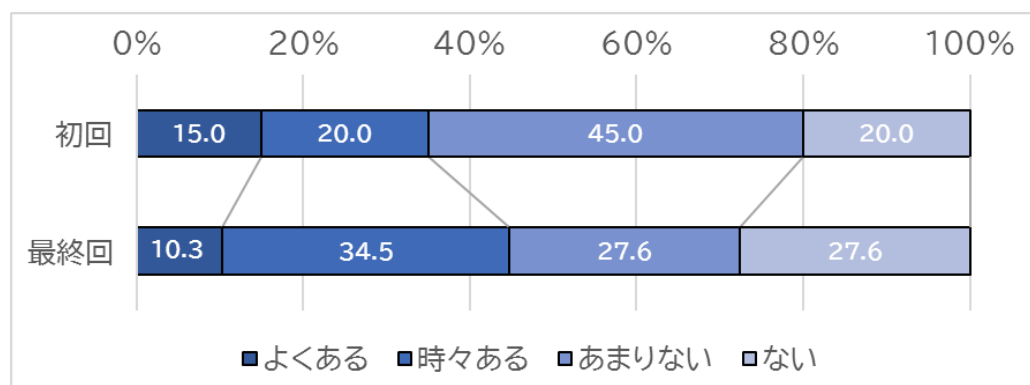
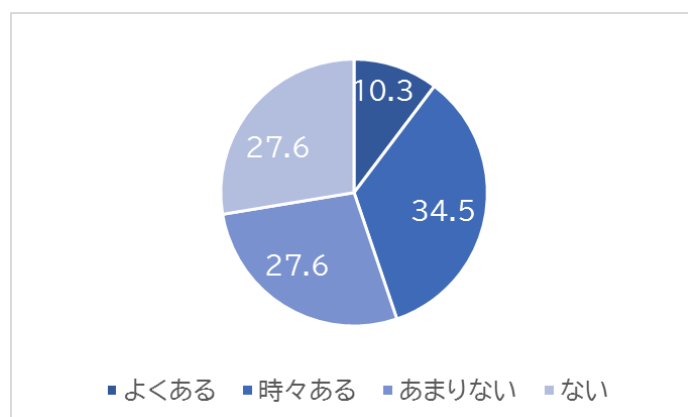
人前で意見を言うことを恥ずかしいと思うか

	人数	割合(%)
思う	3	10.4
ときどき思う	9	31.0
あまり思わない	6	20.7
思わない	11	37.9
合 計	29	100.0



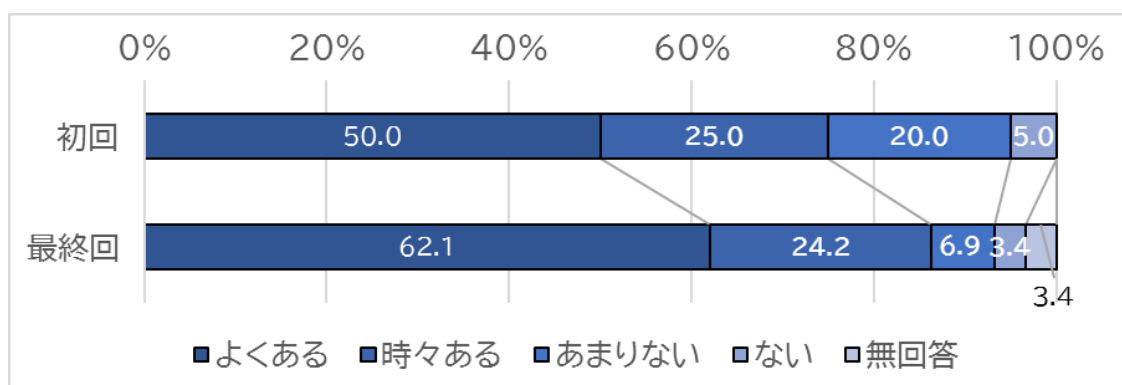
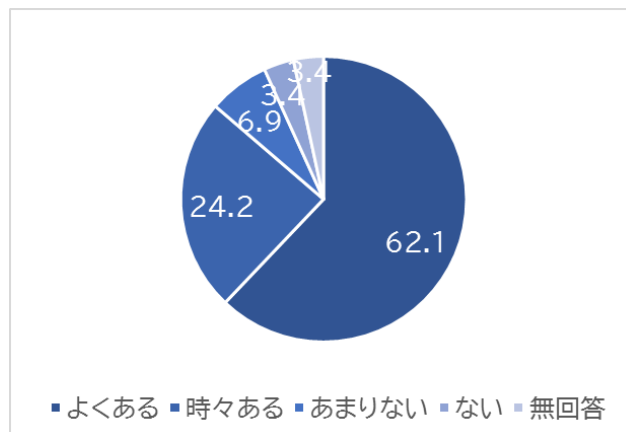
自分の言いたいことを言えないことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	3	10.3
時々ある	10	34.5
あまりない	8	27.6
ない	8	27.6
合 計	29	100.0



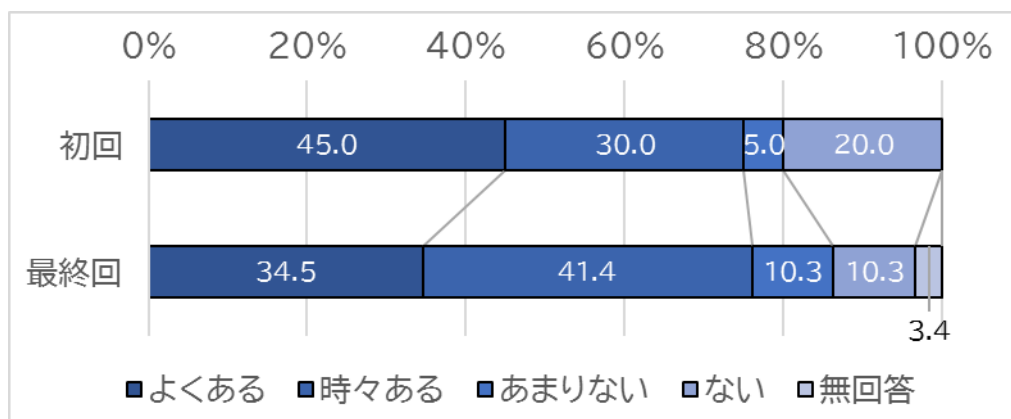
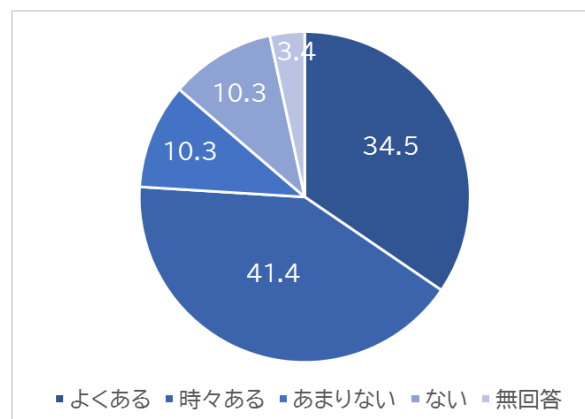
家庭で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	18	62.1
時々ある	7	24.2
あまりない	2	6.9
ない	1	3.4
無回答	1	3.4
合 計	29	100.0



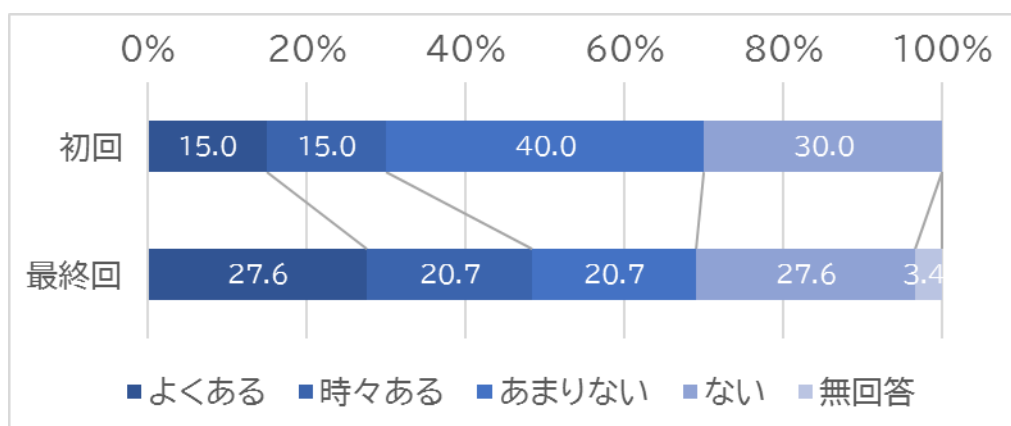
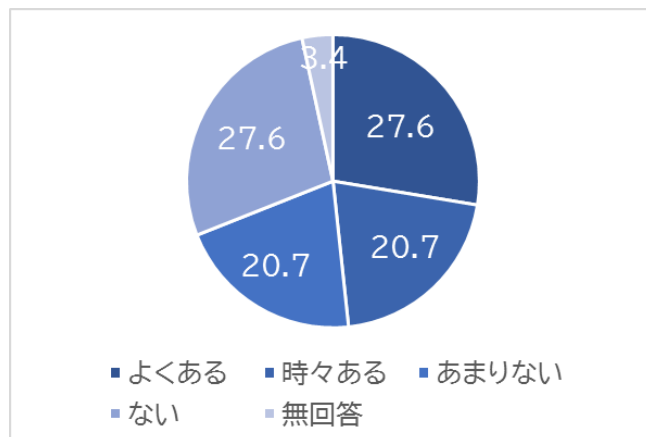
学校で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	10	34.5
時々ある	12	41.4
あまりない	3	10.3
ない	3	10.3
無回答	1	3.4
合 計	29	100.0



地区で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	8	27.6
時々ある	6	20.7
あまりない	6	20.7
ない	8	27.6
無回答	1	3.4
合 計	29	100.0



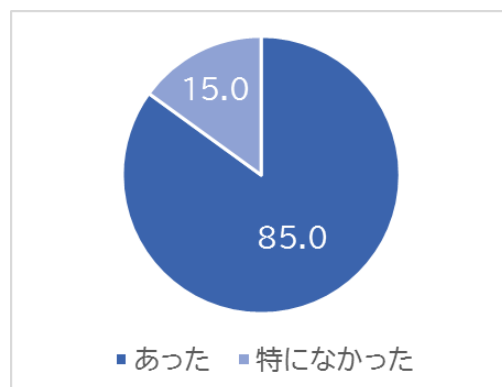
未来委員会の感想（自由記述）

- ・話し合いでいろいろなことを知って、知識を深められた。
- ・人前で話すことに慣れたので良かった。
- ・いろいろな所に行ったり、様々な人に会えたりしたことが楽しかった。
- ・初めて知ったこともあり、勉強になった。
- ・今まで考えてきたことの中から、自分たちでできることをやってみたい。
- ・市や企業の担当の方の話をする機会が多いと良い。
- ・提言で市長さんたちに言われたことを実践してみる期間があっても良かった。
- ・市への提言を2回にしたら、もっと活動が充実すると思う。
- ・市内見学をもっと増やしてほしい。
- ・もう少し市の政策に沿った提言をすれば、市政に反映されてモチベーションも上がると思う。
- ・グループの意見をまとめるのが難しかった。

4 保護者最終回アンケート

子どもに変化があったか

	人数	割合(%)
あった	17	85.0
特になかった	3	15.0
合 計	20	100.0



変化の内容(複数回答)

	人数	割合(%)
松本に興味・関心を持つようになった	14	70.0
人前で発言することに慣れた	14	70.0
学校行事等に積極的・自発的になった	6	30.0
家庭での会話が増えた	2	10.0
家庭や学校で明るい表情が増えた	1	5.0
合計	37	

要望・感想等

- ・提言の資料作成は、中高生が主になっているようで、小学生の参加が難しいようです。
- ・とてもいい経験をさせていただきました。確実に本人の力になっていると感じています。
- ・子どもの成長が感じられた一年となりました。
- ・子どもの権利を知れば知るほど、学校のあり方について「今のままでいいのかな？」と考えるようになったようです。学校でも、もっと子どもが声をあげやすい環境づくりが必要かなと感じることがあります。県内には他にも子どものための活動に取り組んでいる自治体があるようなので、交流できたらと思います。
- ・松食い虫についての話は興味深かったようで、興奮しながら得た知識を家で話してくれました。障がいを持つ方のお話も、想像できない苦労をされている点に驚いたようです。貴重なお話を伺える場を作っていただき、ありがとうございました。
他の学校のお子さんと親しくなることもでき、1年間楽しく参加させていただいたようです。メンバーがより親しくなれるようアイスブレイキングなどがあればいいと思います。
- ・学校では体験できないことや、自分らしく発言、行動できる場だったようです。
- ・以前に比べ自分の意見を述べる事が上手になった事を実感しました。人見知りをする息子が一年間一度も欠席せずに参加できたことに感謝しています。
他学年の活発で良い影響を与えてくれる皆さんとの交流は、この様な機会が無いと難しいので参加できて本当に良かったと思います。
- ・学校以外や年齢の違う人との交流ができるのは、とても素晴らしいと思います。

..........*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*

第8期 まつもと子ども未来委員会
活 動 報 告 集

発行 松本市
編集 松本市こども部こども育成課

〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号
電話 0263-34-3291 FAX 0263-34-3309

令和5年7月発行

..........*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*



まつもと子ども未来委員会のマークに子どもたちが込めた思い

- ① 松本を大切にしたい（手の中に松本市）
- ② 笑顔でいっぱいになりたい
- ③ 松本の自然（山・太陽）を描きました